



# EF EPI

EF EPI 英語能力指数

世界112か国・地域の英語力ランキング

[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)

## EF SET

EF英語標準テスト  
[www.efset.org](http://www.efset.org)

2021



## 目次

- 04 エグゼクティブ・サマリー
- 06 EF EPI 2021 ランキング
- 08 EF EPI 2021 都市別スコア
- 10 EF EPI 詳細データ
- 12 英語と経済
- 13 英語とイノベーション
- 14 職場における英語
- 16 英語と社会
- 17 英語と未来
- 18 ヨーロッパ
- 20 アジア
- 22 中南米
- 24 アフリカ
- 26 中東
- 28 結論
- 30 提言
- 32 付録A:この指標について
- 34 付録B:EF EPI 能力レベル
- 35 付録C:CEFR レベルとCan-Do自己評価
- 36 付録D:EF EPI 各国・地域スコア
- 38 付録E:参考資料

# エグゼクティブ・サマリー

英語を話すスキルを持つことで、これまで以上に幅広い情報や多様なネットワーク、より多くの雇用機会を得ることを可能にします。

グローバル化が進む世界では、共通言語に適応することが不可欠です。コミュニケーションは繋がりを生み、イノベーションを後押しし、理解を促進します。つまり、グローバルで連携して仕事をするには共通言語が必要となります。それには英語だけが選択肢ではありません。言うまでもなく、中南米で行われる国際貿易はスペイン語で、中東では主にアラビア語で行われていますが、それに加えて世界共通のリング・フランカ（共通語）が必要です。世界中に英語を話す人口が25億人いる中で、母国語としているのがたったの4億人だという事実がこれを裏付けています。我々が英語を学ぶのは、英語がそれぞれにとって便利な言語だからです。

成人にとっての英語のスキルは、インクルージョンを推し進める原動力となり、専門能力の開発への関与を可能にし、異なる環境やバックグラウンドを持つ人々に公平な機会を与えることができ、高度なレベルでの国際的な人材管理や向上を可能にします。

本レポートは世界のどの地域で英語能力がどのように伸びているか調査することを目的としています。EF EPI英語能力指数2021年版の作成にあたっては、2020年に弊社の英語テストを受験した200万人の結果を元に分析しています。

注目すべき分析結果は次の通りです：

## 成人の英語力は緩やかだが継続的に向上

世界平均の英語能力は昨年と比較して大きく変わりませんが、16か国では能力レベルが向上し、一方で下降が見られたのは1か国のみで、大幅なスコアの下降（800ポイント中20ポイント減）は全く見られませんでした。昨年度には対象国として含まれていなかつた12か国が今回新たに英語能力指数に加わったこと、指數の中間レベルにスコアが集中したことが通常よりもランキングが大きく上下した原因だと考えられます。このランキングの変化は頻繁に取り上げられるものではありますが、英語能力を絶対的に表したものではなく相対的な評価であることをご理解ください。

## 男性の英語への取り組み

2014年に英語能力指数の評価を開始して以来、世界的な男女間の差は男性の英語レベルの向上によって縮まってきており、今回初めて世界平均で男性の英語能力が女性を上回りました。この動向はアジア以外の全ての地域で見られており、女性の英語レベルが安定する一方、男性の英語レベルは向上を続けています。アフリカは唯一女性のスコアがいまだに優勢ですが、その差は縮まっています。英語の地位が世界中で上昇することを示す指標の中でも、次の例が最も決定的なものと考えられます。

## 30代の上達が最も速い

2015年以降、30代成人は21歳～25歳の3倍もの英語能力の向上を見せています。また、本年度の40歳以上の世界平均は初めて標準的な英語能力に到達しました。これらの動きは、語学を学ぶのは若い頃が一番で大人になると語学力は向上しないという一般的な考えを覆すものとなりました。社会的・経済的な利益によってモチベーションを持ち、実践的な場面で定期的に英語に触れる機会があれば、大人もスキルを上達させることができます。

## 英語は経済競争率を高める

英語は国境を越える情報交換の場において圧倒的に使用されている言語であり、情報や専門知識へのアクセスに重要な要素となっています。本レポートでは英語とイノベーションや競争力における様々な取り組みの間には一貫した強い相関性が見られました。この分析結果は管理職員の出身国が多岐に渡る会社の方が、多様性に劣る競合他社よりもイノベーションの分野で多くの収益を上げているという研究結果とも一致します。英語を話す組織は、より多様な人材を集めることができ、世界中からアイデアを取り入れることを可能にします。また、組織内や取引企業間で国際的な共同作業を行う機会も多くなります。

## 英語が職種を選ぶ

全業界で勤続年数や職位にかかわらず英語を職務要件とする動きが高まっています。英語能力の最も高い業界と最も低い業界の能力差は2012年以降20%縮み、これまでのような経営陣、管理職、一般職員の間の大きな能力差も見られませんでした。一方で、事務職やメンテナンス職員のグループと、マーケティング、戦略、法務に従事するグループとでは、これまで同様英語能力の差は歴然です。もちろん、全ての職種で英語が必要なわけではありませんが、一生にわたって同じ職業に従事することが珍しくなっているなか、職務の流動性こそが個人や企業、経済のレジリエンスを決定づけるカギとなります。

## 都市部に住む人の英語能力が高い

ほぼすべての大都市が周辺地域に比べ英語能力が上回っており、各国の首都はその国全体の能力を上回っています。都市と地方を分断する要因は経済だと考えられます。仕事の機会やより良い給与を求める意欲的な人材が地方を離れていく、都市に出ると、オフィスワークやより国際的な環境で英語に接する機会がさらに増えます。この英語能力の差が埋まることは現実的ではないものの、各国は都市部の学校と並ぶ英語教育を地方の学校で実施していくことで、能力差の拡大を防ぐことができます。

**英語能力の高い国はより公平で解放的**  
世界にオープンな社会であること、平等性と自由、英語能力には明確な関係性が見られます。これを示す最も単純な例が、国外へと目が向けられた国と英語の相関性です。これは好循環を生み出すサイクルであり、世界と深く関わる（経済、科学、外交などの観点から）地域は英語を必要とし、英語が優先項目となります。この世界との関りを通して大人はより英語に触れる機会が増え、その結果英語能力が向上します。

英語と公平性の関係はさらに複雑ではあるものの、英語とジェンダーの平等、社会的活動性、自由との間には一貫して強い相関関係があります。反対に不平等な社会は英語能力を低下させる傾向があり、人口の一部に英語学習の機会が行き渡っていないことが原因と見られます。

**継続的に英語能力が高まっているヨーロッパ**  
ヨーロッパの英語能力は他の地域と比べて最も高く、2011年以降大幅に向上しました。一方、ヨーロッパの経済大国であるフランス、スペイン、イタリアにおける平均レベルとEU諸国の中では依然として差が目立っています。この3か国では過去10年間に顕著な向上が見られますが、近隣諸国に追いつくほどの速さがなく遅れをとっているのが現状です。

### 矛盾したトレンドを持つアジア諸国

アジア圏内の英語能力平均は昨年と横這いですが、地理的大きさを考えれば地域全体の平均を指標とするのは理想的ではないかもしれません。最も明らかな進歩を見せたのが中央アジアで、2018年に英語能力指標に加わってから年間に平均8ポイントを伸ばしています。東アジアでは、日本の英語能力の着実な低下にもかかわらず、長期にわたって少しずつ伸びが見られます。南アジアとASEAN諸国においては、数か国で英語の上達が見られたものの、加重平均値の下降によってその動きは様々でした。

### 主に向上を続ける中南米

中南米では、過去10年間でほぼ全ての国の成人的英語能力が向上し、急速ではないものの着実な伸びを見せています。今後、この進歩を定着化するために、男性と同様に女性の英語能力を引き上げる必要性があるでしょう。この地域における男女間の能力差は拡大を続け、持続可能な状態ではありません。また、メキシコが2011年以降スコアを69ポイント落とし、英語能力の着実な下降を見せていることは注目し投資すべき点でしょう。

### 英語力が分散傾向にあるアフリカ

今年度、アフリカ地域の英語能力分布図がこれまでと比べてより詳しいものとなりました。図からは英語スキルが大幅に分散していることがわかり、スコアの高低差から見ると、どの地域よりも最も差が大きいことが浮き彫りになりました。北アフリカでは急速な変化が目立ち、アルジェリア、エジプト、チュニジアでは本年度の調査で能力レベルを1つ上昇させ、特にアルジェリアは世界中のどの国よりも年間のスコアの伸び率が高くなっています。

### 向上に難航している中東地域

中東地域の成人的英語能力は依然として世界で最も低く、その差は歴然としています。過去10年間にわずかな進歩は見られたものの、25歳未満の成人は変化が全くなく、若年層の人口を多く占めるこの地域にとっては懸念すべき点でしょう。また、女性の英語能力は男性に追いついていません。直接的なトレーニングや英語に接する機会を与える職場の存在が、成人的英語能力を構築するカギであり、女性が職場に入れないことがスキルの向上を妨げています。

言語は人を繋ぎ、人がアイデアを共有し、そこから知識を得ながら文化を形成するためのツールです。また、その言語を話す人口が多いほど、さらにその言語を学ぼうと多くの人を磁石のように引き付ける性質があります。世界の人々が平等に英語学習の機会を与えられることで、英語は近い将来、多様性やインクルージョンを実現させる原動力となるかもしれません。

# EF EPI 2021 ランキング



## 非常に高い英語能力

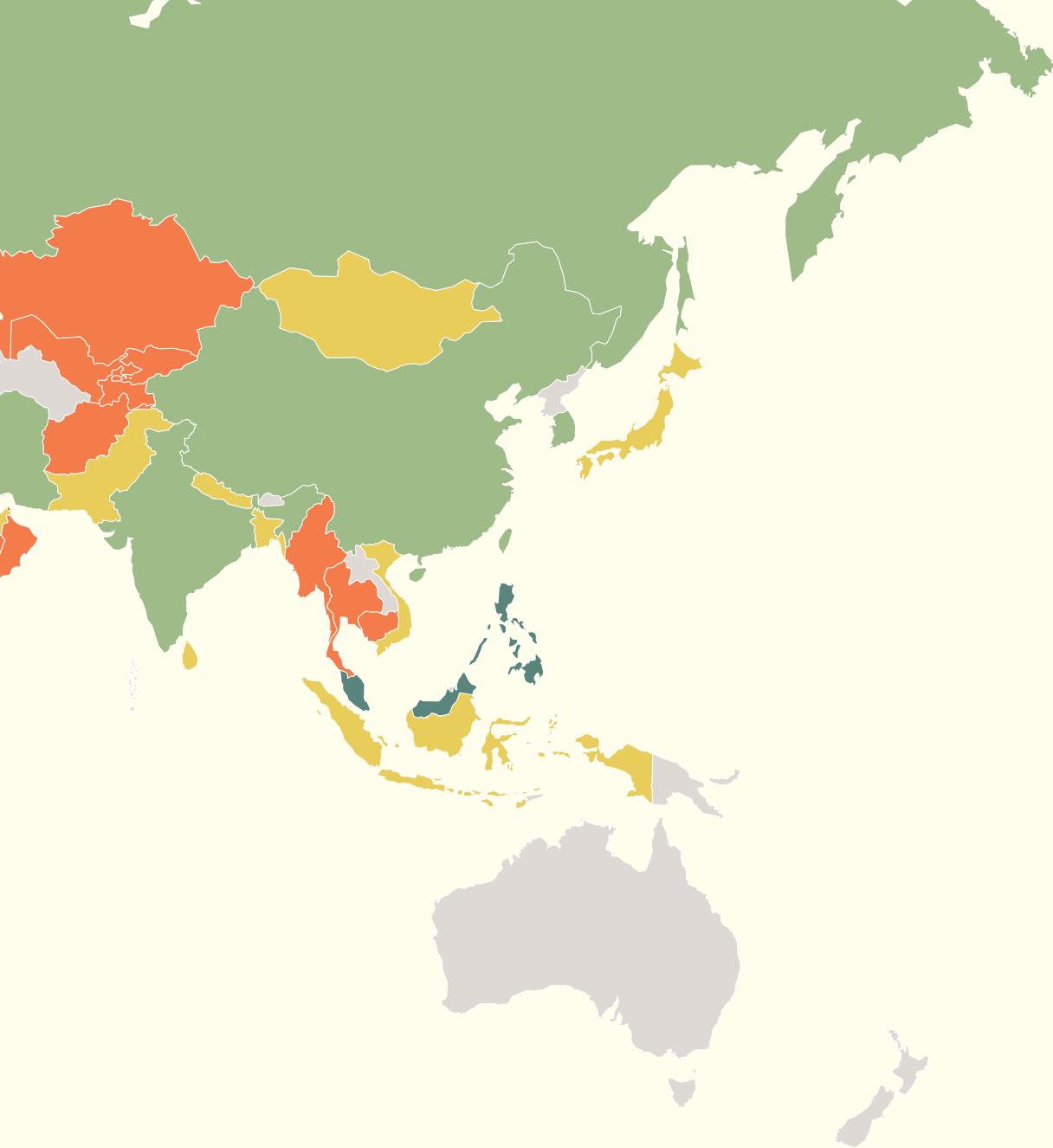
01 オランダ	663
02 オーストリア	641
03 デンマーク	636
04 シンガポール	635
05 ノルウェー	632
06 ベルギー	629
07 ポルトガル	625
08 スウェーデン	623
09 フィンランド	618
10 クロアチア	617
11 ドイツ	616
12 南アフリカ	606
13 ルクセンブルク	604

## 高い英語能力

14 セルビア	599
15 ルーマニア	598
16 ポーランド	597
17 ハンガリー	593
18 フィリピン	592
19 ギリシャ	591
20 スロバキア	590
21 ケニア	587
22 エストニア	581
23 ブルガリア	580
24 リトアニア	579
25 スイス	575
26 ラトビア	569
27 チェコ共和国	563
28 マレーシア	562
29 ナイジェリア	560
30 アルゼンチン	556
31 フランス	551

## 標準的な英語能力

32 香港特別行政区	545	44 パラグアイ	520
33 スペイン	540	47 チリ	516
34 レバノン	536	48 インド	515
35 イタリア	535	49 中国	513
36 モルドバ	532	50 ジョージア	512
37 韓国	529	51 ロシア	511
38 ベラルーシ	528	52 チュニジア	510
39 アルバニア	527	53 ウルグアイ	509
40 ウクライナ	525	54 エルサルバドル	508
41 ボリビア	524	55 ホンジュラス	506
42 ガーナ	523	56 ペルー	505
43 キューバ	521	57 マカオ特別行政区	504
44 コスタリカ	520	58 イラン	501
44 ドミニカ共和国	520		



### 低い英語能力

59 アルメニア	499	73 パナマ	475
60 ブラジル	497	73 ベネズエラ	475
61 グアテマラ	493	75 アルジェリア	474
62 ネパール	492	76 ニカラグア	470
63 エチオピア	491	77 マダガスカル	469
63 パキスタン	491	78 日本	468
65 バングラデシュ	490	79 カタール	467
66 ベトナム	486	80 インドネシア	466
67 タンザニア	485	81 コロンビア	465
68 モザンビーク	482	82 スリランカ	464
69 アラブ首長国連邦	480	83 モンゴル	461
70 トルコ	478	84 クウェート	458
71 モロッコ	477	85 エジプト	455
72 バーレーン	476	86 アゼルバイジャン	451

### 非常に低い英語能力

87 アフガニスタン	448	100 タイ	419
88 ウズベキスタン	447	101 キルギスタン	418
89 シリア	445	102 オマーン	417
90 エクアドル	440	103 タジキスタン	405
90 ヨルダン	440	104 サウジアラビア	404
92 メキシコ	436	105 ハイチ	403
93 ミャンマー	429	106 ソマリア	401
94 アンゴラ	428	107 イラク	399
94 カメルーン	428	108 リビア	390
96 カザフスタン	426	109 ルワンダ	389
97 カンボジア	423	110 コンゴ民主共和国	386
98 スーダン	421	111 南スудан	363
99 コートジボワール	420	112 イエメン	360

# EF EPI 2021 都市別スコア

能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

## 非常に高い英語能力

アムステルダム	682
コペンハーゲン	668
ヘルシンキ	659
ウィーン	658
ストックホルム	646
ポルト	643
ヨハネスブルグ	641
リスボン	638
ザグレブ	635
オスロ	633
ブダペスト	628
ベルリン	622
ハンブルグ	622
ワルシャワ	621
アテネ	616
チューリッヒ	616
ブカレスト	612
ベオグラード	604
ナイロビ	601

## 高い英語能力

ブリュッセル	598
ダバオ	597
クアラルンプール	596
マニラ	595
パリ	595
プラチスラバ	594
ソフィア	591
プラハ	590
チェンナイ	586
ムンバイ	586
リヨン	580
バンガロール	579
ラゴス	576
ミラノ	571
ソウル	571
バルセロナ	569
マドリード	569
ブエノスアイレス	567
コルドバ	561
サンホセ	553
ローマ	552
サンティアゴ	552

## 標準的な英語能力

ハノイ	548	ティラナ	520
ハイデラバード	548	ブラジリア	517
サンパウロ	546	東京	516
香港	545	モンテビデオ	515
上海	543	深圳	515
ミンスク	538	チュニス	515
サンクト・ペテルブルグ	537	テヘラン	514
モスクワ	535	リオデジャネイロ	513
サント・ドミンゴ	535	バンドン	512
アクラ	534	ダッカ	512
リマ	532	モンテレイ	512
キエフ	531	ドバイ	511
グアダラハラ	528	カラチ	511
ハバナ	527	カザン	511
デリー	524	サン・サルバドル	510
北京	523	ジャカルタ	506
トビリシ	523	成都	505
ダルエスサラーム	522	パナマ市	505
スラバヤ	522	カラカス	504
アディスアベバ	521	マカオ特別行政区	504
台北	521		



### 低い英語能力

広州	498
武漢	498
グアテマラシティ	497
マプト	493
アルジェ	492
アンカラ	489
メデリン	489
ボゴタ	486
カサブランカ	482
イスタンブール	482
カイロ	480
ホーチミン市	480
キト	480

### 非常に低い英語能力

マナグア	475
メキシコシティ	475
ドーハ	472
バンコク	471
ヌルスルタン	470
アルマトイ	466
ティファナ	464
アンマン	460
バクー	459
カリ	458
ウランバートル	454
ダマスカス	451
タシケント	446
ハルツーム	441
ヤンゴン	441
カブール	440
ビシュケク	437
ルアンダ	436
リヤド	432
バグダッド	431
ジェッダ	424
モガディシュ	423
アビジャン	421
トリポリ	421
ヤウンデ	420
ドゥシャンベ	412
キガリ	405
キンシャサ	403
ジュバ	375

400を超える地域と都市の英語重能力スコア、および国別、地域別の性別、年齢、業種のデータは [www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi) からダウンロードできます。

# EF EPI 詳細データ

## 受験者の内訳

**200**万人

合計受験者数



**53%**

女性



**47%**

男性

**96%**

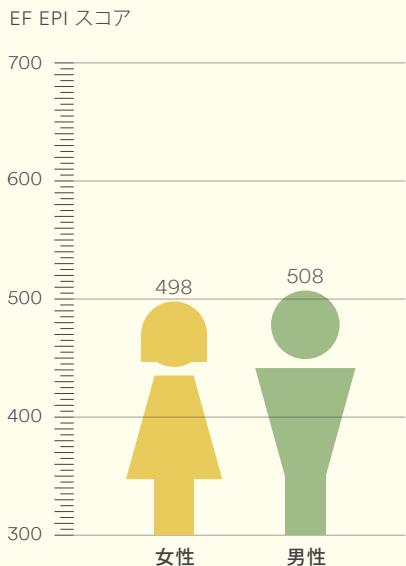
60歳未満

**26**歳

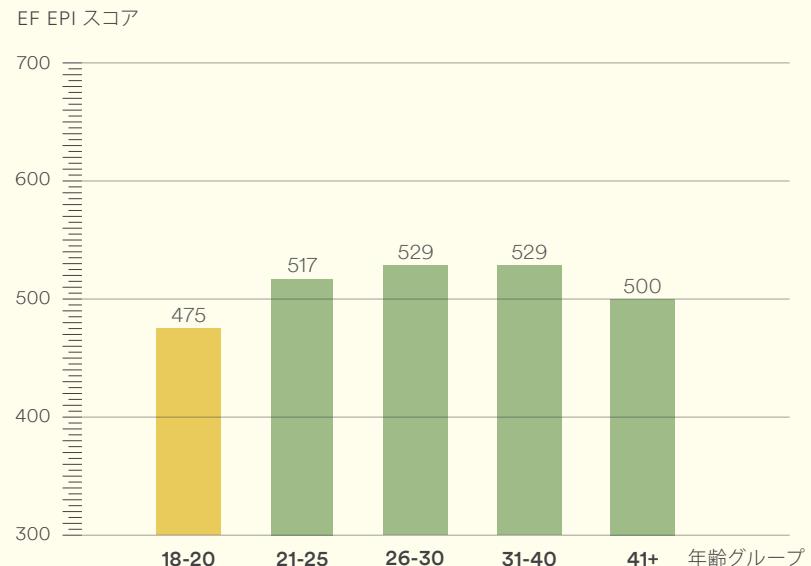
年齢の中央値

## 性別および年齢が英語能力に及ぼす影響

### 世界全体の男女差



### 世界全体の世代間差



能力レベル

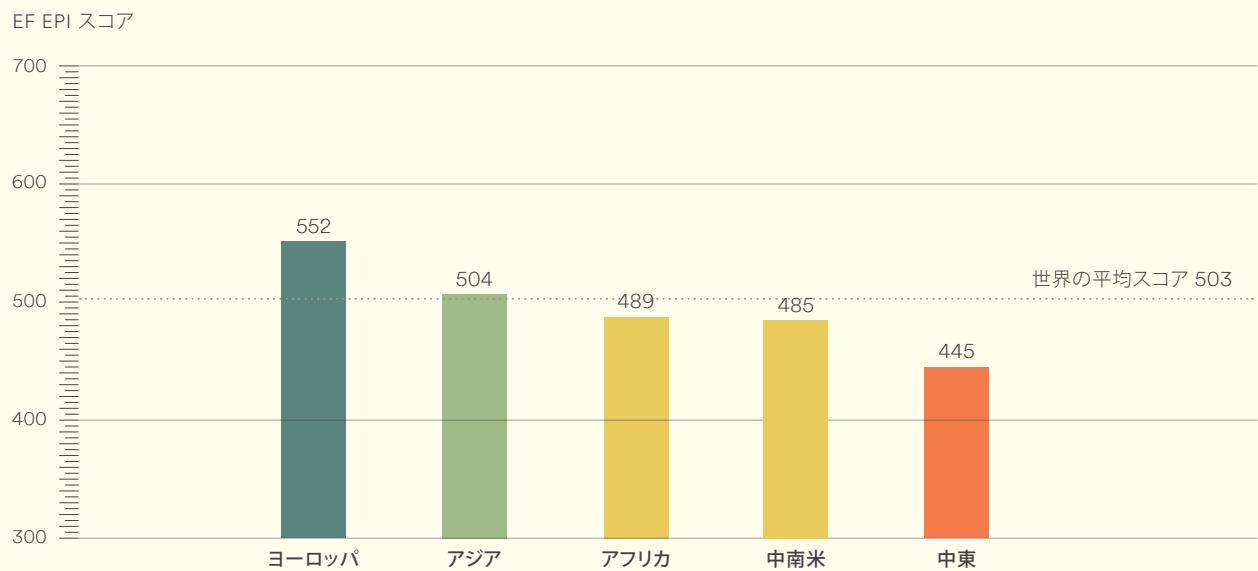
● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPI 2021 地域別トレンド

	ヨーロッパ	アジア	アフリカ	中南米	中東
最高スコア	オランダ <b>663</b>	シンガポール <b>635</b>	南アフリカ <b>606</b>	アルゼンチン <b>556</b>	レバノン <b>536</b>
最低スコア	アゼルバイジャン <b>451</b>	タジキスタン <b>405</b>	南スーダン <b>363</b>	ハイチ <b>403</b>	イエメン <b>360</b>
能力レベル上昇 (国、地域)	2	3	4	6	1
能力レベル降低 (国、地域)	0	0	0	0	1

## EF EPI 2019 地域別スコア

### EF EPI 地域別平均

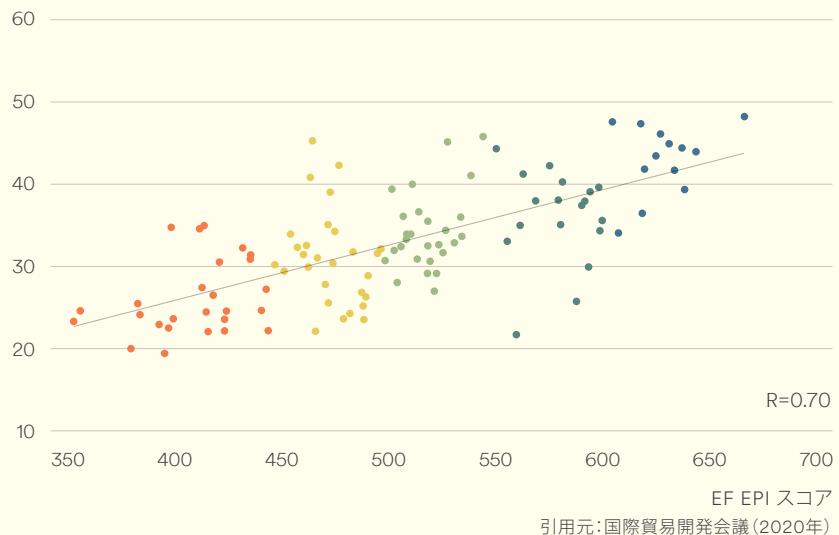


# 英語と経済

この10年間で、GDP、一人当たりの所得、その他の経済指標と英語能力の間には、一貫して強い相関関係があることが分かりました。英語は現代社会の人材を形成する重要な基盤となっており、サービスの輸出や競争力の向上、国際貿易の促進を可能にし、一人ひとりの視野を広げます。英語が必要不可欠なスキルになったことから、2025年以降OECDが行う生徒の学習到達度調査(PISA)に、読解力、算数、理科と並んで英語も調査対象に加えられることが決定しています。

グラフ A  
**英語と生産性**

生産性指標

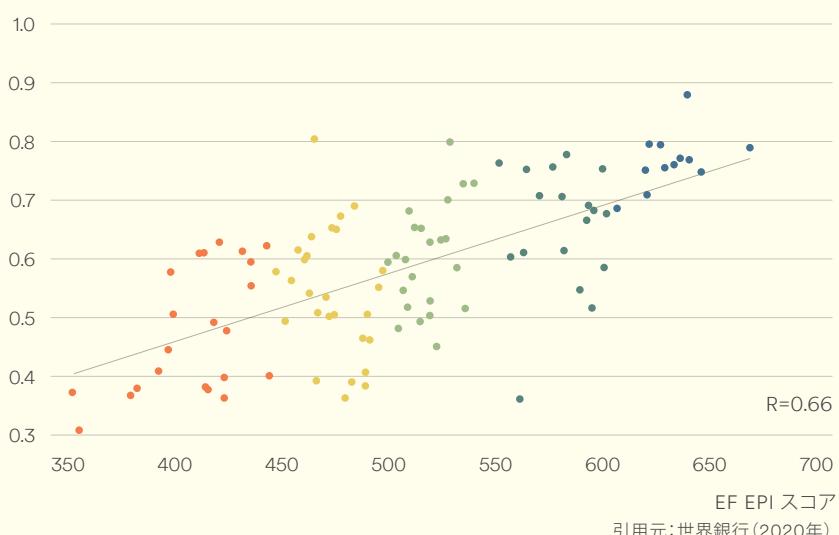


能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

グラフ B  
**英語と人権資本**

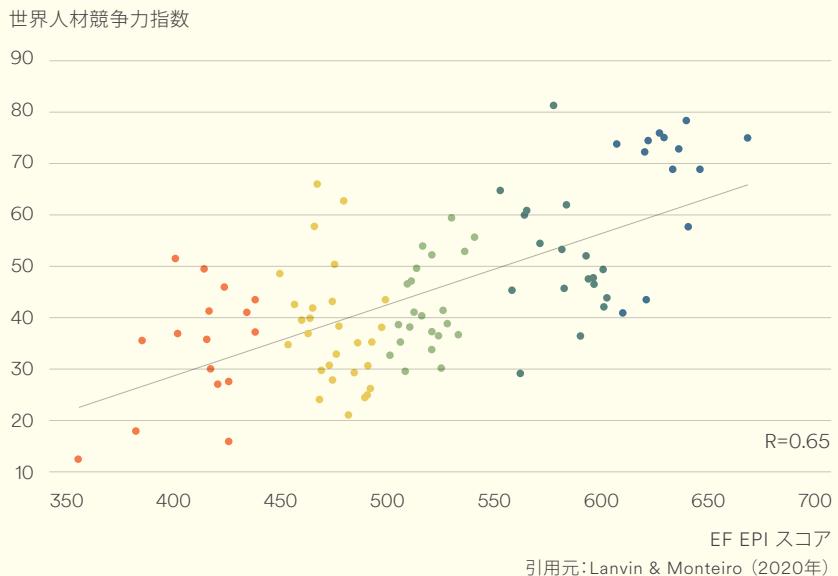
人的資本指数



# 英語とイノベーション

イノベーションは研究所や企業、大学から、技術やアイデアが自由に混ざり合い進化できる公開フォーラムのような環境までの一連の流れによって高められます。この情報交換に最も使用されるのが英語です。英語という言語そのものには革新的で科学的な性質はありませんが、数多くの人が話すという事実がネットワーク効果を生み出します。英語を話す人口が多ければ多いほど、英語は便利なコミュニケーションツールとなると言えるでしょう。

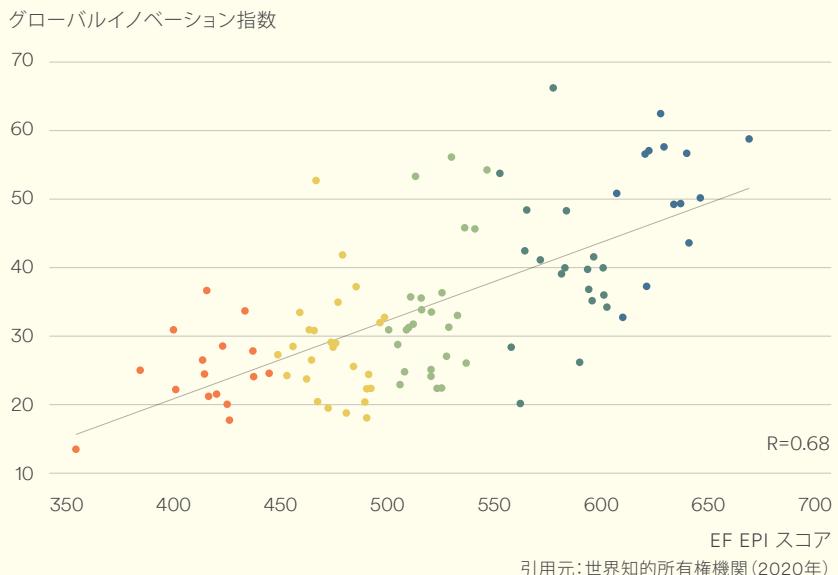
グラフ C  
**英語と人材競争力**



## 能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

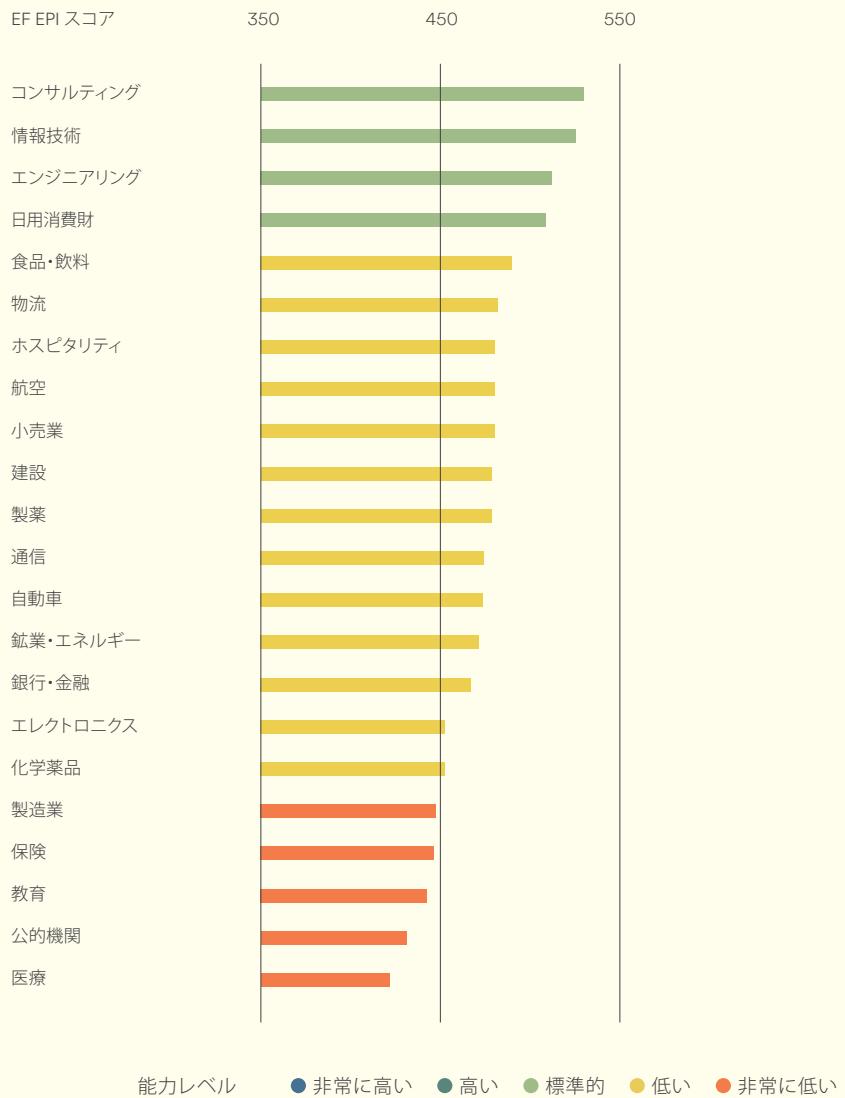
グラフ D  
**英語とグローバルイノベーション**



# 職場における英語

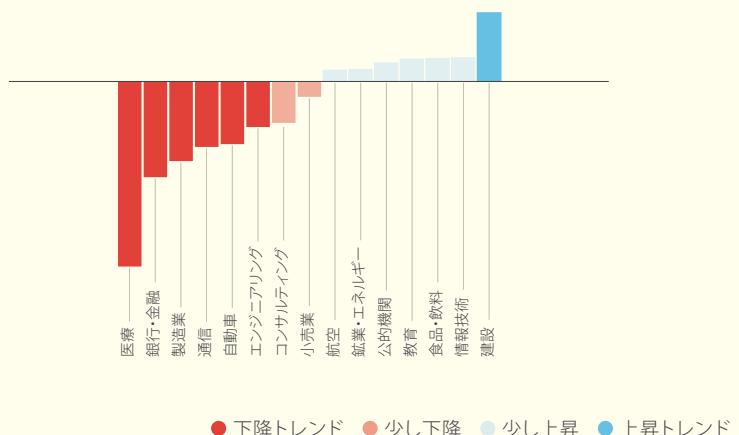
平均から見ると、ほとんどの業種が効率よく仕事ができると考えられるレベルの英語力（標準的な英語能力以上）を下回るレベルであることが分かりました。もちろんこれは業種平均であり、全ての企業に当てはまるわけではありませんが、他社との取引きが全くない企業は多くないでしょう。これにより、日々の業務のなかで、伝達ミスや非効率な知識の共有、曖昧な説明、労力を必要とする交渉をはじめ、様々な要因に大切な時間を奪われてしまい企業の足かせを生むことになってしまいます。

## 業種別 EF EPI



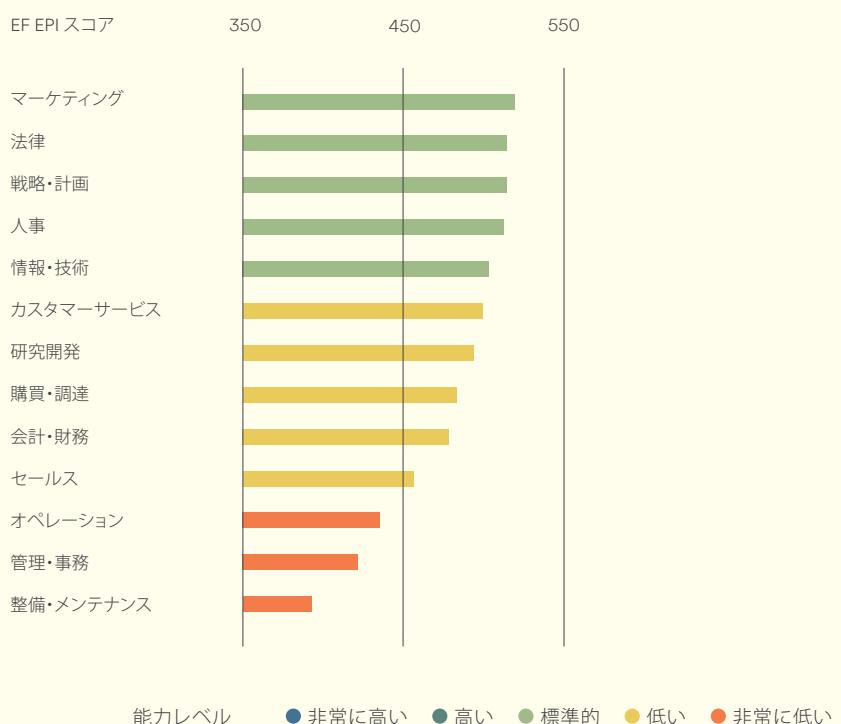
職場における英語能力は、全体的に2012年以降大きな変化は見られませんが、業種別でのスコアの差は約20%縮まっています。これは業界にかかわらず英語が職務要件としてより一層求められていることを示しています。経済全体で英語のスキルを均一化することは、人材にも組織の構造にも柔軟性を与える前向きなトレンドだと言えるでしょう。しかしながら、職場における英語レベルの向上が見られないという結果から、組織の効率性を高める余地は今後十分に残されていることが見てとれます。

## EF EPI (2012年～2021年) 業種別トレンド



現代のビジネスは国境を越えたチームが急速に増え階級制が薄れていなくな、俊敏性やイノベーションを重要視する動きが高まっています。プロフェッショナルが新しい職務に就くために必要な英語スキルを持ち合わせていない場合、キャリアアップの道は制限され、また雇用側にとって、これは非効率な構造を生み出す原因となります。ビジネスニーズがかつてないほど急速に変化するなかで、新しいスキルを身に付け、既存のスキルを向上させる企業の俊敏性が競争力の力となります。英語はキャリアアップの障壁ではなく、インクルージョンを促進させる原動力であるべきと考えられます。

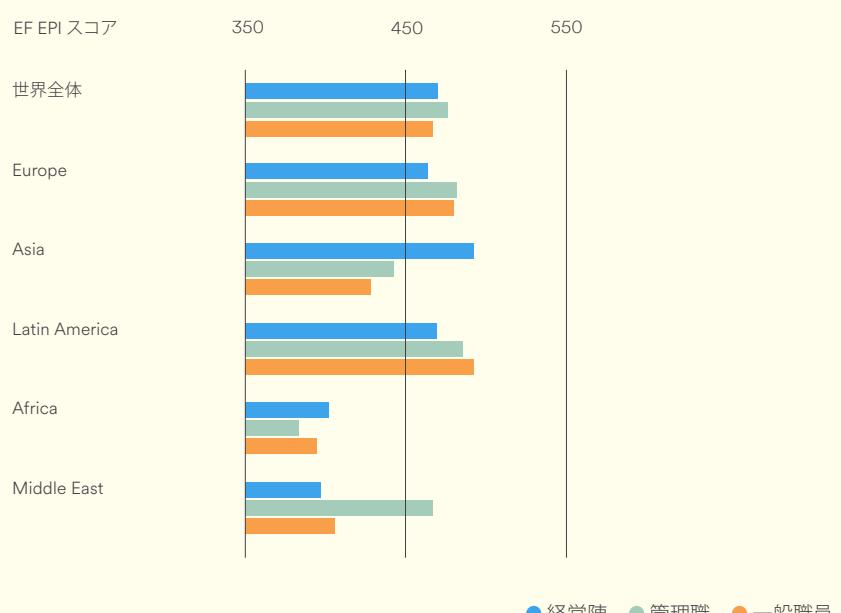
### 職種別 EF EPI



能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

世界的に見ると、中間管理職は他の職位と比べて少し英語能力が高いことが分かりますが、その差はごく僅かで、調査対象となった5つの地域のうち3つの地域では他の職位を下回りました。異なる職位間で英語能力がほぼ均等に広がっているのは、30代以上の成人の英語力が着実に向上しているという調査結果と一致しています。アジアと中東地域での職位間の差は比較的大きいものの、英語能力の向上と共に縮小するものと見られています。

### 職位別 EF EPI



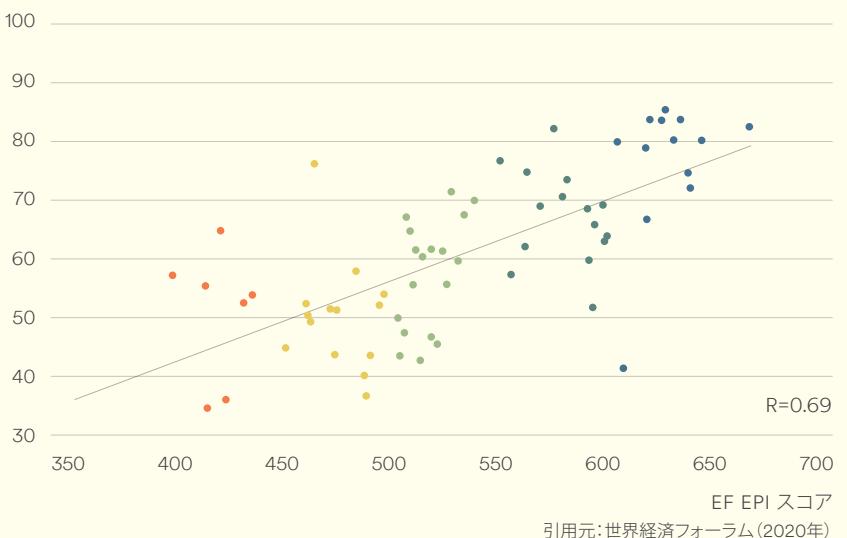
● 経営陣 ● 管理職 ● 一般職員

# 英語と社会

現代社会には不平等さがあふれ、政治制度への信頼が損なわれ、高まる不公平感に拍車をかけています。英語能力は国民全体に公平な機会を与える国で高いことがわかっています。英語は国際的な機会を切り開き、国が国内だけに留まることなく社会経済的流動性をより一層拡大させることに繋がります。一方、英語のスキルが社会に均等に与えられない場合、問題はむしろ悪化傾向になると考えられます。

グラフ E  
**英語とソーシャル・モビリティ(社会的流動性)**

世界社会的流動性指数

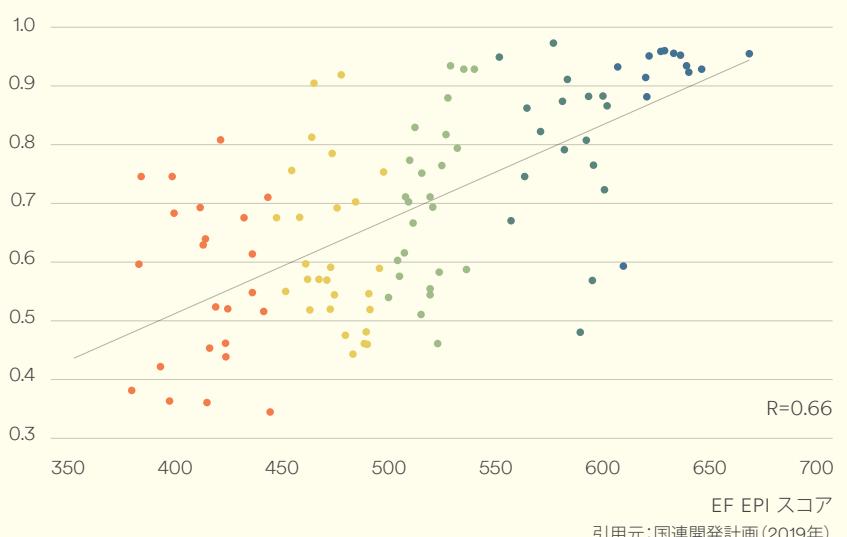


## 能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

グラフ F  
**英語とジェンダー平等**

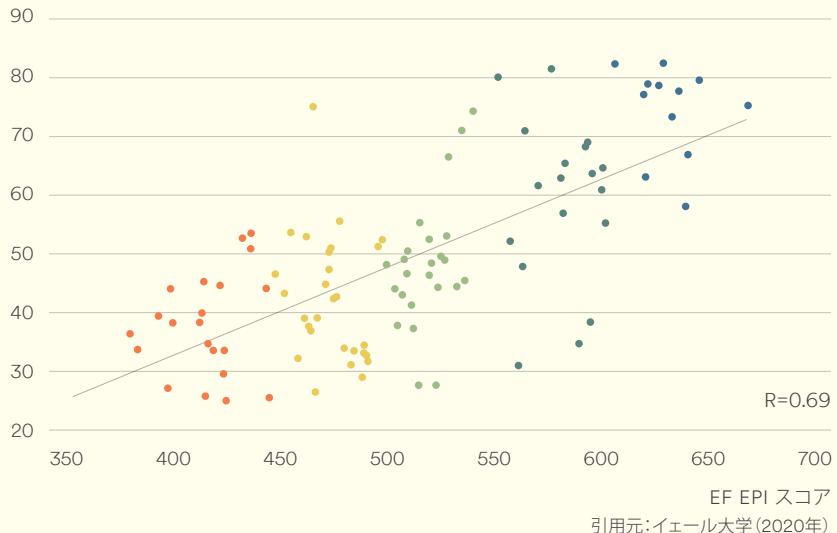
ジェンダー不平等指数(逆数)



# 英語と未来

グローバル化が進むこの社会にはコミュニケーションツールが必要とされ、英語はその役割を着実に確立してきました。英語を話すことで様々な意味で国際的に人々と関わることができます。それは同僚と会うことやNetflixを見ることだけではなく、人類が直面する課題を理解したり、解決に向け協力し合ったりすることでもあります。地球温暖化危機への取り組みから国家間の平和の維持まで様々挙げられますが、それには情報への自由なアクセスや摩擦を生まない国際コミュニケーションなどの最も基本的な条件が必要とされます。

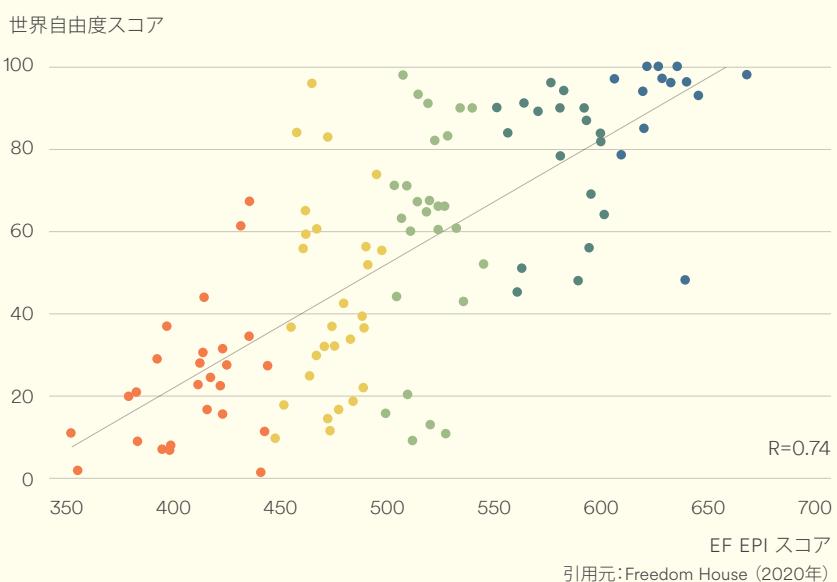
グラフ G  
**英語と環境**  
環境パフォーマンス指数

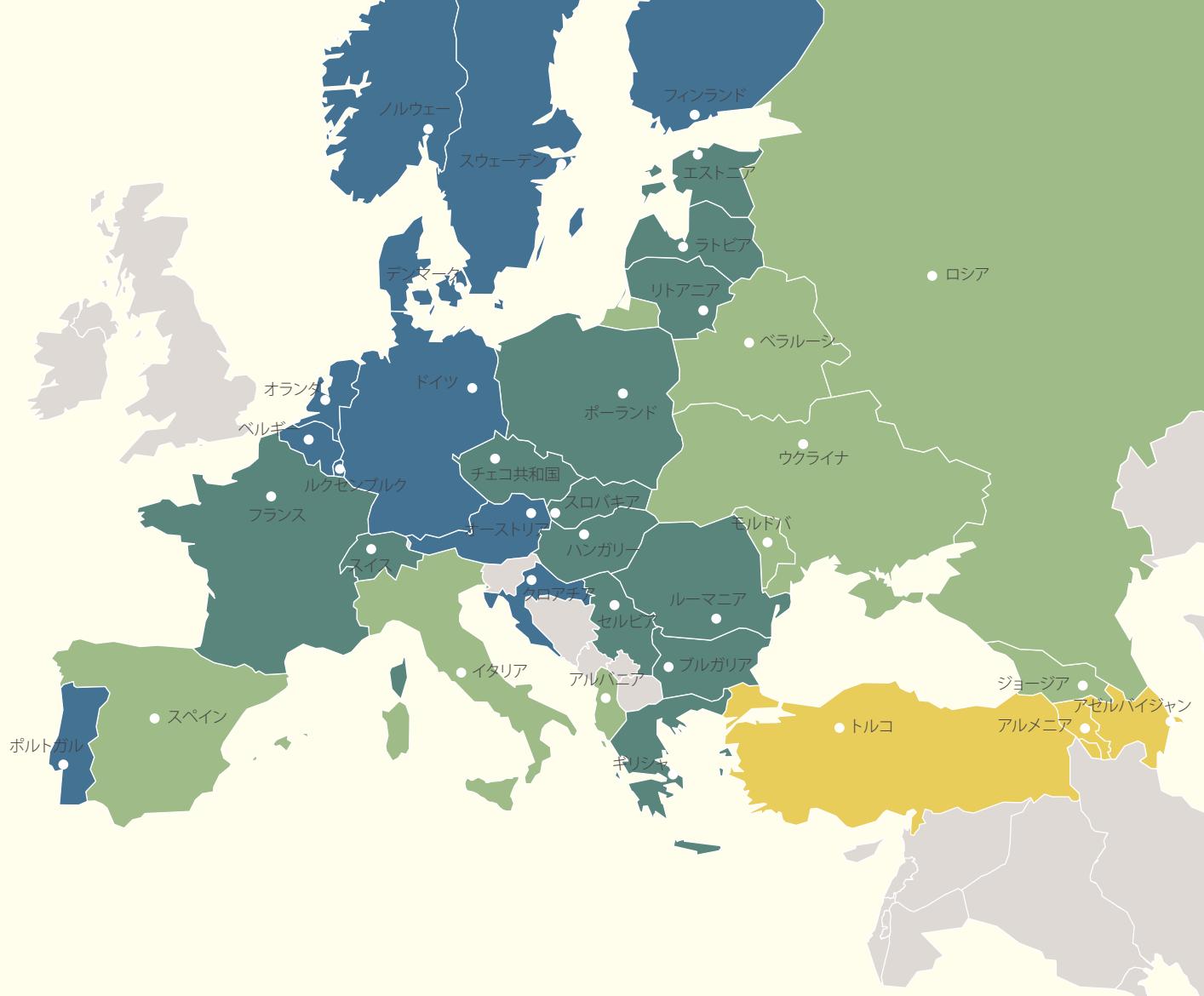


## 能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

グラフ H  
**英語と自由**  
世界自由度スコア





# 三一四ツノピ

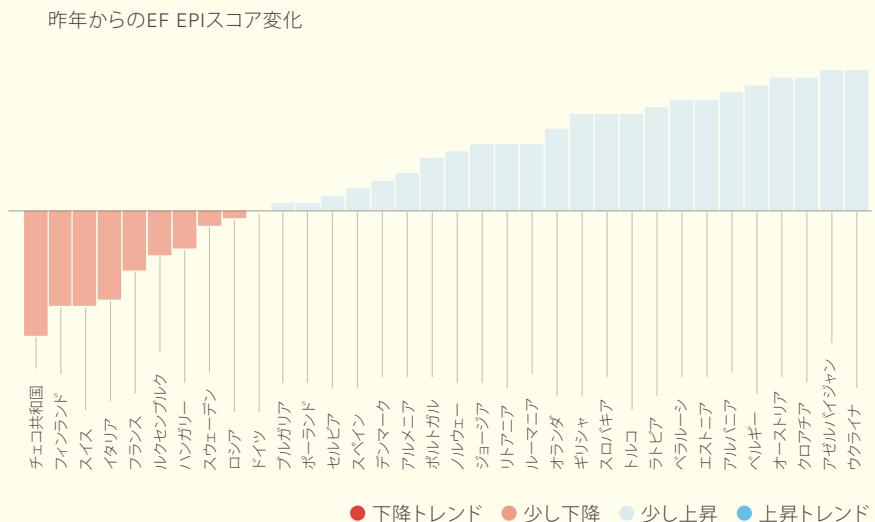
## EF EPI ランキング

01 オランダ	663	15 ルーマニア	598	33 スペイン	540
02 オーストリア	641	16 ポーランド	597	35 イタリア	535
03 デンマーク	636	17 ハンガリー	593	36 モルドバ	532
05 ノルウェー	632	19 ギリシャ	591	38 ベラルーシ	528
06 ベルギー	629	20 スロバキア	590	39 アルバニア	527
07 ポルトガル	625	22 エストニア	581	40 ウクライナ	525
08 スウェーデン	623	23 ブルガリア	580	50 ジョージア	512
09 フィンランド	618	24 リトアニア	579	51 ロシア	511
10 クロアチア	617	25 スイス	575	59 アルメニア	499
11 ドイツ	616	26 ラトビア	569	70 トルコ	478
13 ルクセンブルク	604	27 チェコ共和国	563	86 アゼルバイジャン	451
14 セルビア	599	31 フランス	551		

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPIトレンド

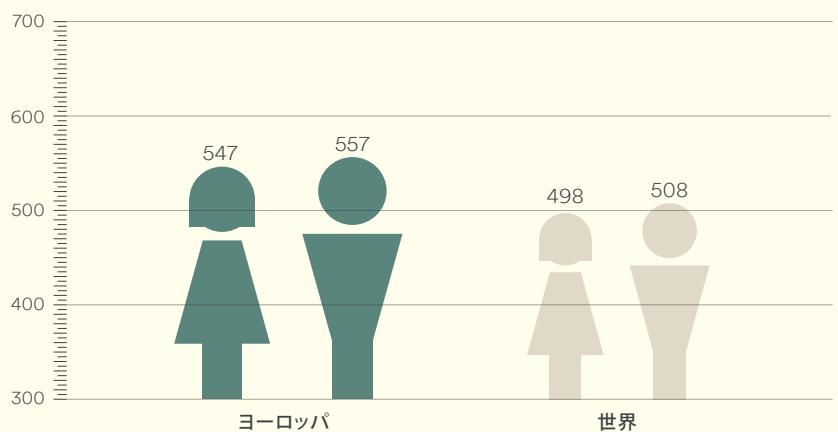
EU諸国の標準英語レベルは、2011年以降平均で毎年6ポイント上昇しており、過去10年間に世界で最大の伸びを見せた地域です。中でもポルトガルは英語力を128ポイント伸ばし、本指標のトップの座を獲得しました。



## 男女の差

昨年度ヨーロッパでは、男性の英語能力が差は僅かながらも女性を上回りました。今年、その差は2倍に拡大しています。特にアルバニア、チェコ共和国、デンマーク、スペインでは、男性のスコアが全体的に女性のスコアを大幅に上回っています。

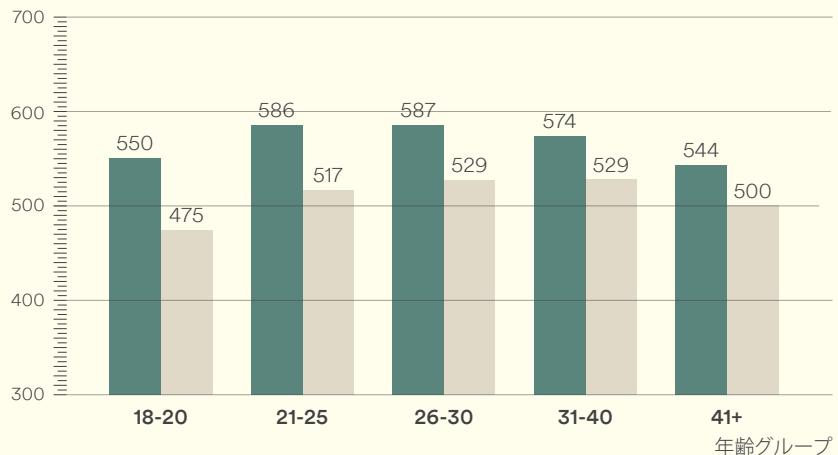
## EF EPI スコア

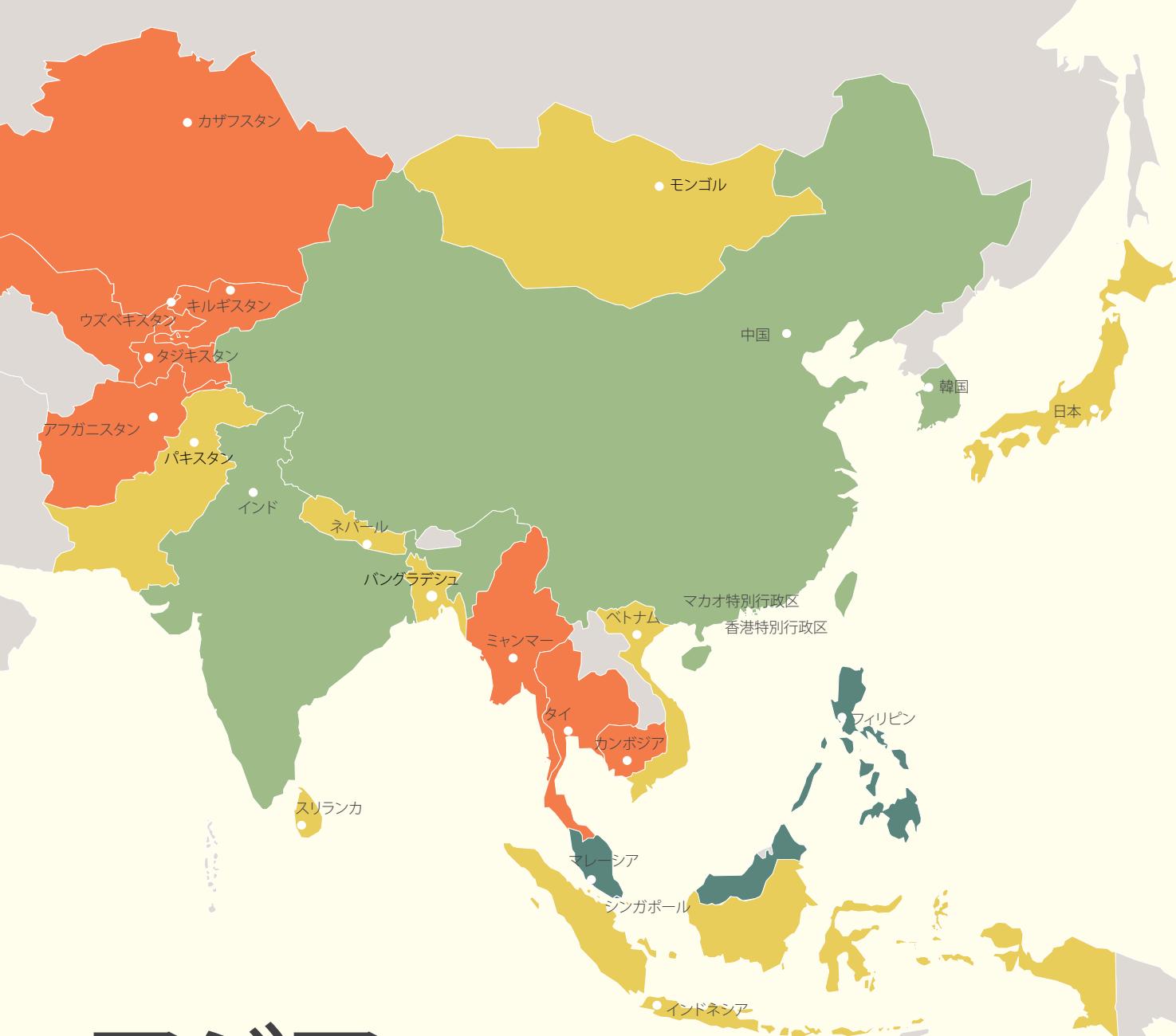


## 世代間の差

ヨーロッパでの英語能力の向上は、比較的年上の成人が主導しているように見えます。2015年に年齢に関するデータ収集を開始してから、40歳以上のヨーロッパ人の英語は、20～25歳のおよそ2倍向上しており、一方18～20歳のグループには大きな変化は見られませんでした。

## EF EPI スコア





# アジア

## EF EPI ランキング

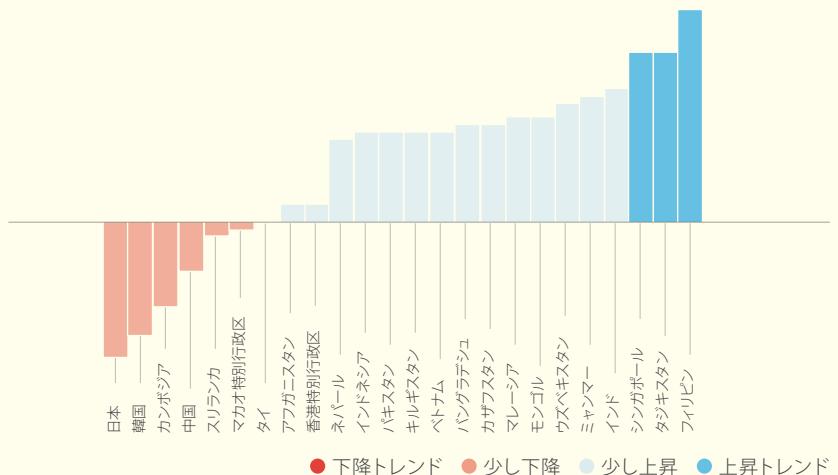
04	シンガポール	635	63	パキスタン	491	93	ミャンマー	429
18	フィリピン	592	65	バングラデシュ	490	96	カザフスタン	426
28	マレーシア	562	66	ベトナム	486	97	カンボジア	423
32	香港特別行政区	545	78	日本	468	100	タイ	419
37	韓国	529	80	インドネシア	466	101	キルギスタン	418
48	インド	515	82	スリランカ	464	103	タジキスタン	405
49	中国	513	83	モンゴル	461			
57	マカオ特別行政区	504	87	アフガニスタン	448			
62	ネパール	492	88	ウズベキスタン	447			

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPIトレンド

過去10年間で、アジアの英語能力は他の地域と比べ、総合的に安定している一方、国別に見ると結果は様々です。中央アジアは2018年に初めて指標に加わりましたが、世界で最も進歩が速い地域で、平均で年間8ポイントスコアを上げています。

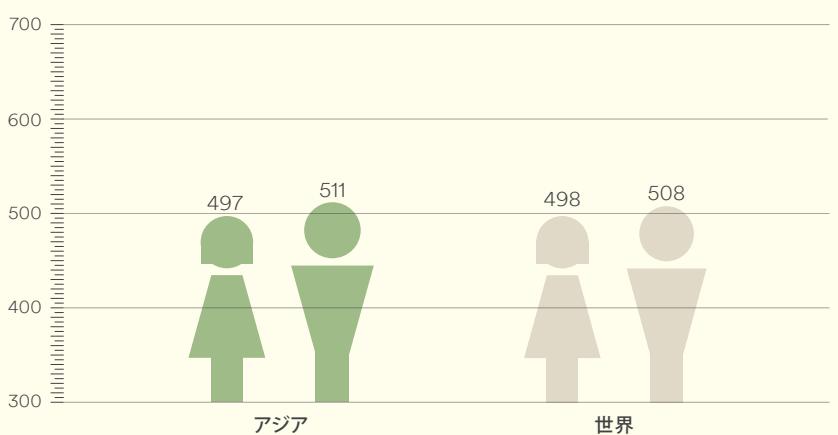
昨年からのEF EPIスコア変化



## 男女の差

今年、アジアでは男性の英語能力が初めて女性を上回りました。これにはインドとタイの男女差がそれぞれ21ポイントと32ポイントであったことが起因していると見られます。一方、中国は逆の動きを見せました。男女差は女性が男性を昨年の倍となる36ポイントで上回り、世界第3位の格差となりました。

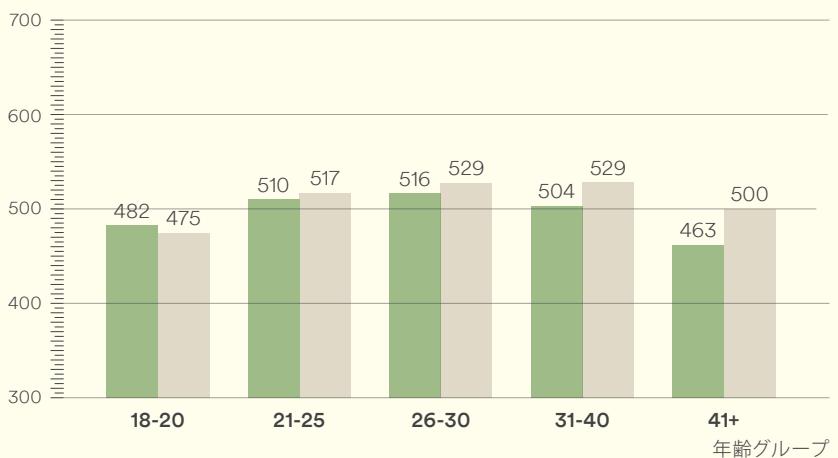
EF EPI スコア



## 世代間の差

アジアでは20代、30代の成人が英語力が最も高いことが分かりました。年齢別のスキル分布では2015年以降大きな変化はなく、18~20歳のグループは僅かに能力の低下が見られました。

EF EPI スコア





# 中南米

## EF EPI ランキング

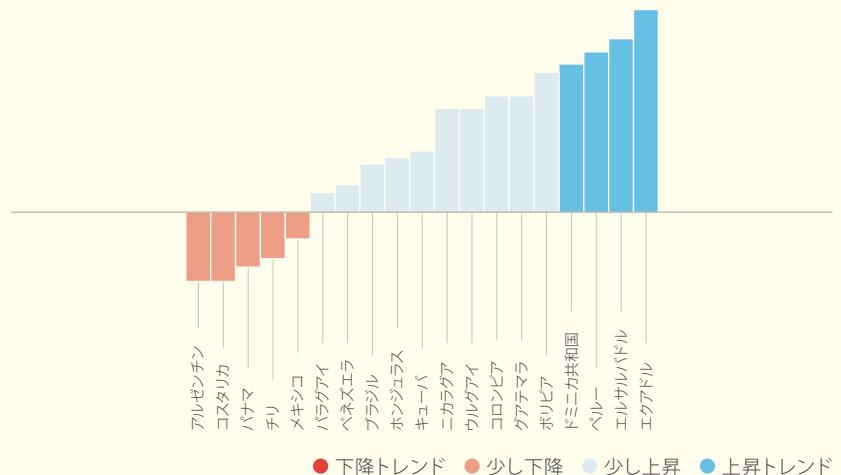
30	アルゼンチン	556	56	ペルー	505
41	ボリビア	524	60	ブラジル	497
43	キューバ	521	61	グアテマラ	493
44	コスタリカ	520	73	パナマ	475
44	ドミニカ共和国	520	73	ベネズエラ	475
44	パラグアイ	520	76	ニカラグア	470
47	チリ	516	81	コロンビア	465
53	ウルグアイ	509	90	エクアドル	440
54	エルサルバドル	508	92	メキシコ	436
55	ホンジュラス	506	105	ハイチ	403

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPIトレンド

中央アメリカと南アメリカでは、昨年度どちらも英語能力が全体的に伸びを見せ、標準的な英語能力レベルに属する国がこれまで最も多くなりました。しかしながら、2017年以降下降を続けるメキシコのスコアによって相殺される形となり、中南米全体の平均は横這いになっています。

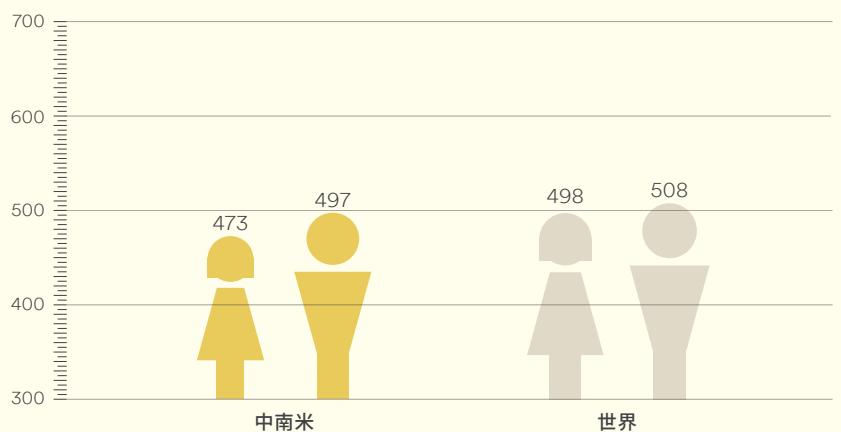
昨年からのEF EPIスコア変化



## 男女の差

2014年以降、中南米の女性の英語能力は僅かに低下した一方、男性の能力は顕著な上昇を見せ、世界で2番目に男女差が大きい地域となりました。男性の英語能力が大幅に上回っている8つの国のうち、5か国が中南米に属しています。

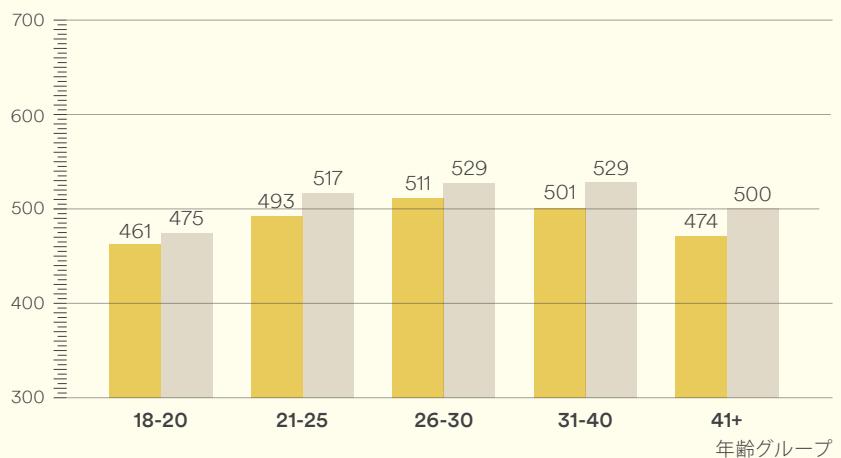
EF EPI スコア



## 世代間の差

中南米で2015年以降最も英語能力を伸ばしているのは30代の成人です。この地域では、学校教育制度が英語レベルの要因として称賛(もしくは非難)される傾向にありますが、経済的インセンティブや職場で英語に触れる機会、英語圏メディアへのアクセスなども成人の英語能力に影響を与えていることは明らかであると考えられます。

EF EPI スコア





# アフリカ

## EF EPI ランキング

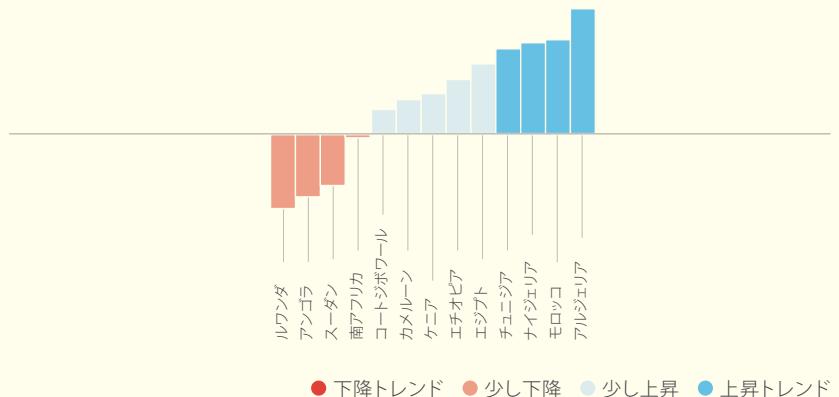
12	南アフリカ	606	85	エジプト	455
21	ケニア	587	94	アンゴラ	428
29	ナイジェリア	560	94	カメルーン	428
42	ガーナ	523	98	スーダン	421
52	チュニジア	510	99	コートジボワール	420
63	エチオピア	491	106	ソマリア	401
67	タンザニア	485	108	リビア	390
68	モザンビーク	482	109	ルワンダ	389
71	モロッコ	477	110	コンゴ民主共和国	386
75	アルジェリア	474	111	南スーダン	363
77	マダガスカル	469			

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPIトレンド

アフリカにおける過去の成人英語能力に関しては、大陸全体のトレンドを分析できるほどのデータが集計されていませんが、アフリカ諸国の中3分の1の国々で昨年度よりも顕著な上昇が見られました。北アフリカでは特にその着実な向上が目立ちます。

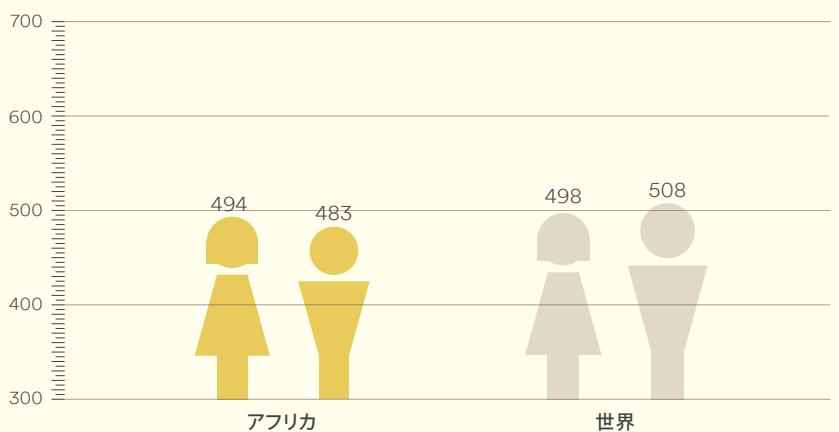
昨年からのEF EPIスコア変化



## 男女の差

アフリカは本年度の指標で女性の英語能力が男性を上回った唯一の地域です。女性の英語力が顕著に上回った7か国の中、5か国がアフリカ諸国でした（エチオピア、ケニア、モロッコ、南アフリカ、スーダン）。

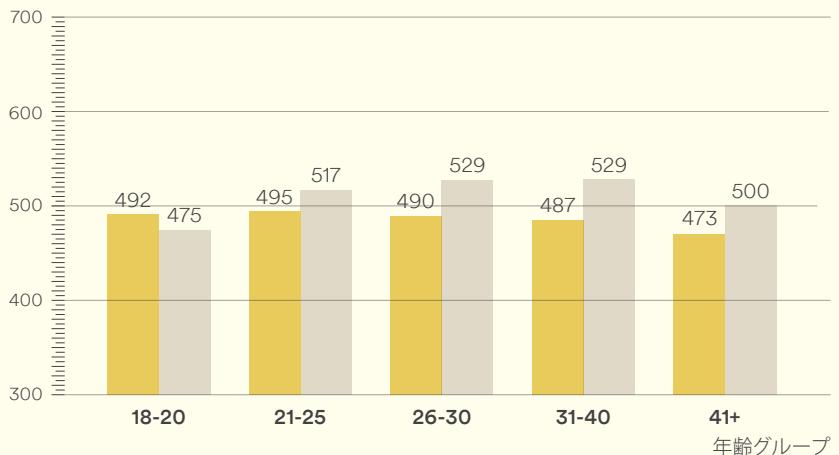
EF EPI スコア



## 世代間の差

全体的に見て、アフリカでは年齢は英語能力の決定的要素ではありません。しかし、このトレンドはアフリカには英語が公用語として話されている国々があることに起因するものです。その他のアフリカ諸国では、能力の最も高い年齢層と最も低い年齢層の格差は大きく開く結果になりました。

EF EPI スコア





# 中東

## EF EPI ランキング

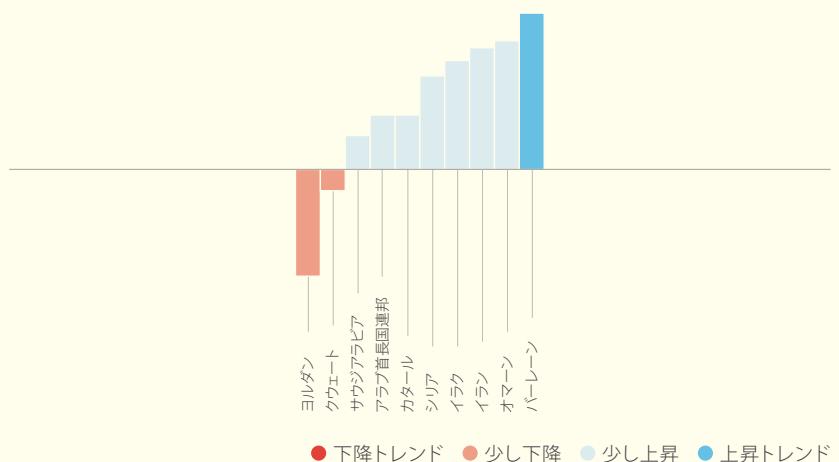
34	レバノン	536	89	シリア	445
58	イラン	501	90	ヨルダン	440
69	アラブ首長国連邦	480	102	オマーン	417
72	バーレーン	476	104	サウジアラビア	404
79	カタール	467	107	イラク	399
84	クウェート	458	112	イエメン	360

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPIトレンド

中東は過去10年間で向上を見せていくものの、他の地域がより急速な向上が見られたため、中東諸国の大半がランキングを下降する形になりました。アジア、ヨーロッパ、中南米、北アフリカが平均で年間5ポイント以上上昇している一方、中東では3ポイントに留まりました。

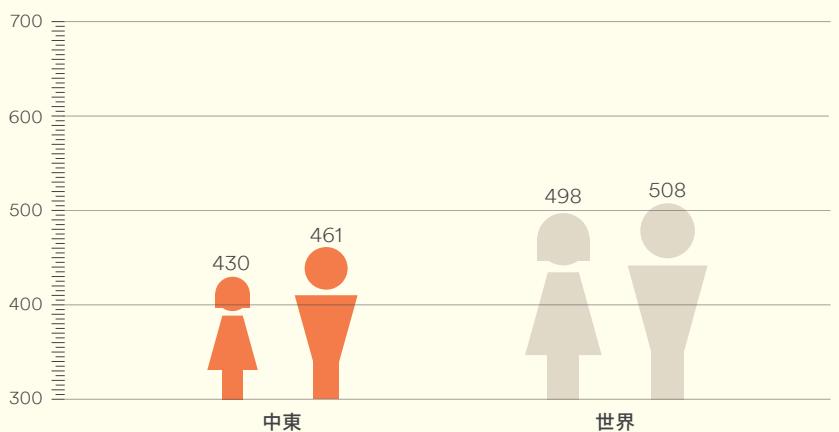
## 昨年からのEF EPIスコア変化



## 男女の差

今年、中東地域ではサウジアラビアとイラクの影響により、英語能力の男女の差が拡大しています。しかし他の地域と同様、この状況にはばらつきが見られ、アラブ首長国連邦では女性の英語能力が男性を上回り、他6か国では大きな男女差は見られませんでした。

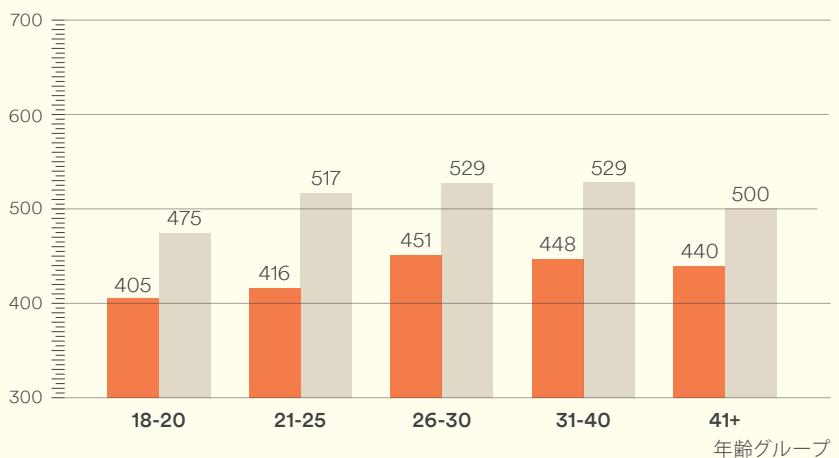
## EF EPI スコア



## 世代間の差

中東では、25歳未満の英語能力が他の成人年齢層と比べて顕著に落ち込む結果となりました。この年齢による能力差は昨年広がり始め、30歳以上の能力向上と若年層の能力低下が同時に起こった時期により拡大したと見られています。若い人口構成のこの地域では、これは懸念すべきトレンドといえるでしょう。

## EF EPI スコア



# 結論

2021年、英語は情報交換における強力なツールです。科学や文化、そして外交からビジネスまで、全ての分野において情報を共有したり最新のイノベーションについていくために英語が使われています。

英語の導入が歴史として根づいた今、グローバル化の拡大がリンガ・フランカの必要性に拍車をかけることになります。経済、技術、人口がより密接に関連し合えばし合うほど、国境を越えたコミュニケーション手段が必要不可欠となるのです。その結果、過去数十年もの間で、不均等ではありながらも着実に世界中で英語の使用が拡大してきました。

企業はその国際化と共に、英語を話す人材をより多く採用し、従業員のトレーニングに投資をします。教育制度は新卒者の英語力の向上と教育法の改善が必要であることを認識しています。子供の競争力を高めたいと願う親は、家庭教師を雇ったり子供を塾に通わせたりします。これはどの国でも変わらず共通したパターンになっています。

他にも、植民地時代の名残である古いパターンや、大規模な観光産業やメディアのストーリーミングなどの新しいパターンもあります。「どうしてあの国の国民は英語をあまり話せないのだろうか?」という問い合わせは明確ではありませんが、成人が語学を学ぶために必要な要素は明確になっています。それはモチベーション、指導法、語学に触れる機会、練習の4つです。

## パンデミックによる地理的思考

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、さまざまな活動がオンラインへ移行したことで、地理的な関わりが弱まったように見られましたが、同時に強くする役割も果たしています。学校、仕事、ボランティア活動、文化活動など、全てがオンラインのバーチャル空間へと移行し、どの地域からでも異文化間コミュニケーションが容易にできるようになりました。都市から地方へ離れる動き、自国に戻る海外在住者など新しい形でビジネスを継続しています。それにより企業によっては大型オフィスの賃貸契約を解約するという動きも散見されます。カンファレンス、コンサート、その他の文化的なイベントは世界中の人にアクセスが可能になりました。

職場文化もまた、開放的になりました。以前は職場の同僚との交流が多く見受けられましたが、在宅ワークでは新たにボーダレスな日常が生まれました。会議は全てオンラインで行われることで、以前よりもより簡単に海外のチームや取引先の担当者とやりとりが増えた方も多いのではないでしょうか。壁として唯一残るのがタイムゾーンですが、これも越えられない壁ではないと言えます。

それと同時に、国境が封鎖され海外旅行者が通年に比べ70%も減少したり、各国の政府が様々な制限を導入したりすることで、政府の持つ権限と言うものを実感する年になりました。また、生活の範囲が自宅周辺に限られるようになり、我々の記憶の中で最も身動きが取れなくなった年だと感じる人も多いのではないかでしょうか。この期間は経済状況の変化、行動や自由の制限、いつになつたらワクチンが接種できるのかといったことが地域によって左右される、今までに例を見ないほどのユニークな年となりました。

## オンラインで継続されるもの

現時点ではパンデミックによって生まれた習慣のうち、どれが今後残っていくかを見極めるのは困難ですが、いくつか明らかなものもあります。在宅勤務は特にこの期間多く実践されたものの一つです。以前の就労形態に戻る企業は多くなく、完全に戻る企業は少ないでしょう。雇用法の存在によって、国境を越えた開放的な雇用形態の実現は難しいかもしれません。企業によってはこれまでより遠方の地域で採用活動を行っており、柔軟な就労形態を受け入れていく考えを示しています。英語はこのような勤務地にこだわらない職務を求める人々にとって重要なスキルになると見えます。

オンライン学習もまた、パンデミックによって試されることになりました。子供は実際に学校で勉強する必要があるということが認識されてきましたが、一方成人は、オンラインプラットフォームを使いこなせる教師、良好なインターネット環境、機能的なソフトウェアとハードウェアなどの全ての必要条件さえ揃っていれば、オンライン学習がうまく実現できることも分かりました。パンデミック渦に少しでもオンライン学習を行った人は学校に戻ることを待ちわびているかもしれません、自分自身の教育の主導権を握るスキルを忘れることなく、今後さらに自主性を持って学習に臨むことになるのではなかろうか。

教師から学部長、ネットワーク管理者まで、教育制度自体がオンラインの指導を強いられたことで多くのことを学びました。小・中・高の生徒は以前通りの対面授業に戻る可能性が高い一方、大学は一線を画すかもしれません。オンラインや混合で行われるコースが大学教育の形として選択肢になるか否かは現時点ではまだはっきりしていません。

最後に、言語を学ぶためには膨大な量の練習と言語に触れる機会(初心者から中上級者に上達するにはおよそ1200時間)が必要とされます。完全なイマージョンを実現させるには海外移住が一番の近道ですが、プロフェッショナルにとって質の高いオンラインスクールがその次に理想的な選択肢になりうると言えます。特に新しく身に付けたスキルをすぐに仕事で活かせる環境があればなおのことです。オンライン英語スクールはこれまで実店舗型のスクールと何年も競合してきましたが、パンデミックがオンライン型の採用の転機となつたのではないでしょうか。

#### 行き過ぎたことをしない

根本的には、世界がより密接に繋がっていればいるほど、国境を越えたコミュニケーションが必要になります。しかし、英語能力を追求することは、一歩行き過ぎてしまうと犠牲を出しかねないものもあります。

子供が母国語で教育を受ける前に英語が唯一の指導言語として用いられた場合、その教育の成果は上がりません。子供の知能を最大限に育むためには、子供が理解できる言語で学ぶ必要があります。幼い頃から英語に触れさせることは良くても、子供が母国語を完全にマスターするまで、指導言語として置き換えることはできません。同様に、教師のトレーニングを行わずに英語の指導導入に走る担当省庁は、そのミスを埋めるために時間と財政を無駄にすることになります。

過去に植民地であった歴史を持つ国々は、当然のことながら植民者の言語と複雑な関係を持っています。異なる言語が教育制度においてどの役割を担うかを決定するには、慎重な検討と国内での対話が必要になるでしょう。

高等教育が国際化し、海外から学生を誘致する動きが高まることで、英語が公用語とされない国々で大学の学位課程が英語で提供されることが必要とされてきます。この動きは小規模の場合問題がないとしても、大学制度全体に拡大された場合ではそこまで英語を話さない学生に対して高等教育を否定することになります。その結果、母国語で大学レベルの教育を修了する学生の数が減少することに繋がります。海外からの学生も、適切な後押しやサポートがあれば現地の言語を学ぶことができるでしょう(優秀なアンバサダーにもなってくれるでしょう)。

#### 英語へのアクセスを平等に

英語を話すことは多くの国で専門的な職に就くための要件である一方、英語教育への平等なアクセスにはまだ多くの課題が残っています。英語教師がいるのは都市部の学校に限られる場合が非常に多いですが、教師の人材が十分でも指導レベルが極めて低い場合が多く見られます。そうなると英語を学ばせるために子供を私立校や海外の学校へ送る親が増えたり、業務後や休み時間を費やして英語学習をする人が増えることになります。しかしその資金を持ち合わせていない人は遅れを取るばかりです。英語のスキルは国際的なトレーニングやキャリアアップへの扉を開くものであり、より良い相互理解や職場での帰属意識を提供するものもあります。

英語能力を不平等社会への不満要素としないためには、英語をコアスキルとして定義するための課題が多く残っています。子供や若年層は基礎教育を受ける中で、英語を専門的なレベルまで学ぶ必要があり、そして成人は効果的な教育プログラムへのアクセスが継続的に必要です。公的機関や民間企業の従事者はどちらも、現職だけでなくキャリアのニーズに沿った英語トレーニングが求められます。

英語を話すことは大きなチャンスを得ることに繋がります。そしてより多くの人々がこの機会を与えられるべきだと考えます。

# 提言

組織や個人の多くが現代社会における英語能力の利点を理解しています。しかし、全ての人が英語能力を高める方法を知っているわけではありません。

## 企業向け

- 各従業員に対して、現在の英語能力と目標の英語能力との差を縮めるために必要となる時間を考慮した現実的な目標を設定する
- 支店を含め、国際性と可動性を大切にした企業文化を構築する
- 海外にいる従業員と頻繁に連絡を取りやすくなるプラットフォームを使用する
- 事務管理部門を含む全ての職務で、様々な国籍の従業員を含む多様性のあるチームを構築する
- 従業員全員をテストし、英語スキルの弱点を戦略的に特定する
- 従業員の役割に合うようにチューニングされた英語カリキュラムで従業員を指導する
- テクノロジーを活用して柔軟性の高い学習を大規模に行う
- 役割ごとに英語能力の最低基準を設け、それらの基準が満たされているかテストする
- 英語を向上するために時間をかけた従業員に褒賞を与える
- 英語学習の体験談を共有することで経営陣や管理職クラスが従業員の手本となる
- 全従業員に対して英語学習へのアクセスを優先する

## 公的機関および教育委員会向け

- カリキュラムで利用可能な時間数と教育の主要な節目ごとに達成できる能力レベルを提示する
- 教師と生徒の両方に対して幅広い評価を行い、学習開始時の基準をベンチマークして継続的に変化をモニタリングする
- 英語によるコミュニケーションスキルを評価できるよう入学試験と卒業試験を構築する
- 全ての新人教師のトレーニングプログラムに英語を含める
- 他の指導法で訓練を受けた英語教師に対し、実践的な指導法の再トレーニングを行う
- 指導に十分な英会話力を持った教師のみが英語を指導できるような制度を設ける
- 英語を指導するための最低基準を設け、定期的に指導員のテストを行い、基準に満たない者をトレーニングする
- 子供たちに母語での読み書きを最初に教える
- 現在の職務のためだけでなく今後のキャリア構築も見据えて、全ての公務員の英語スキルを評価し、必要に応じてトレーニングを提供する

## 教師および教育機関向け

- コミュニケーションにフォーカスした指導法を使用して英語を教える
- 英語クラブ、クラス単位のツイニングプログラム、遠足、ゲストスピーカーなどの活動を通して、生徒が英語を話す機会を頻繁に設ける
- 英語教師が優れた指導法を共有し、効果的に英語を教えるためのアドバイスを得られるフォーラムを開催する
- 教師が自身の英語向上に取り組める明確な道筋を示す
- 大学の全ての専攻で英語を必須科目にする
- 生徒と教授の両方の英語レベルが条件を満たす場合は、教科を英語で指導するのを許可する

## 個人向け

- ツツコツ続け、次の能力レベルに上がるためには何百時間もかかることを理解しておく
- 段階が上がるにつれて能力が向上していることに目を向け、自分の成長を褒める
- 数分でもよいので、毎日英語を学習する
- 一度に何時間も勉強するのではなく、20~30分間勉強する
- 実現可能な目標を具体的に設定し、書き出しておく
- 仕事や研究分野に関連する語彙を暗記し、すぐに使ってみる
- 本を音読するだけでもよいので、会話の練習をする
- 英語でテレビを見たり、本を読んだり、ラジオを聞いたりする
- 英語を話す国へ旅行をする際は、できるだけ会話をする
- 英語でSNSを利用したり、パソコンやアプリの設定を英語で行うことで、語学に触れる機会を拡大して実践する

## この指標について

### 分析方法

本年度の EF EPI は、2020年にEF英語標準テスト(EFSET)または弊社の英語実力テストを受けた200万人を超える受験者のテストデータを基にしています。

### EF 英語標準テスト (EF SET)

EF SET は、オンラインで受けられる読解力とリスニング力を測る適応型英語テストです。当テストは標準化され、客観的にスコア付けされており、受験者の語学能力をCommon European Framework of Reference (CEFR)によって定義された6つのレベルに分類できるよう設計されています。EF SETは全てのインターネットユーザーに無料でご利用いただけます。EF SET の研究および開発についての詳細は、[www.efset.org/about/](http://www.efset.org/about/)をご参照ください。

EF EPI 2021の各国スコアには、TOEFL iBT 2019の各国スコア( $r=0.81$ )およびIELTS Academic Test 2019の各国スコア( $r=0.73$ )と強い相関関係があることが分かっています。このような相関関係から、これらの試験にはデザインや受験者のプロファイルに違いがありますが、国別に見ると、英語能力において同様の傾向があることが分かります。

### 受験者

EF EPI 英語能力指標の試験受験者サンプルは、回答者が言語学習の意欲がある人、および若年成人に偏る傾向がありますが、男女の人数に差ではなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。

- 女性回答者はサンプル全体の53%を占めています。
- 成人受験者の年齢の中央値は26歳です。
- 全回答者の83%が35歳未満、96%が60歳未満となっています。
- 男性回答者の年齢の中央値は27歳、女性回答者の年齢の中央値は26歳で、男性の中央値が女性の中央値をわずかに超えています。

この指標には、受験者数が400人以上の受験者の都市、地域、国のみのデータが使用されていますが、受験者数が400人をはるかに超えている場合がほとんどです。

### サンプリングの偏り

この指標の中に表されている受験者は任意で受験した人々であり、その国全体のレベルを代表するわけではありません。英語を勉強したいと思っている人、あるいは自分の英語スキルを知りたいと思っている人だけがこの試験を受けていますため、一般人口よりも高いまたは低いスコア結果になっている可能性があります。しかしながら、テスト結果は個人使用のみを目的としており、受験者には不正行為によって利害に関係ないこのテストの点数を上げるというような動機は存在しません。

この試験は無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続がある人なら誰でも参加することができます。受験者の大多数が成人労働者または学業を修了したばかりの若年成人です。インターネットにアクセスできない人は自動的に除外されてしまいますが、EF SETのサイトは完全適応型で、受験者の30%がモバイル端末で受験しています。

インターネットの使用率が低い地域の結果では、オンラインの普及状況の影響を大きく受けていると考えられます。このようなサンプリングの偏りは、低所得や教育を受けていない人々を含まないことにより、一般人口の平均スコアよりも実際のスコアを高める傾向があります。それでもなお、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、広範囲にわたる指標についての膨大なデータを収集するのに効果的であり、世界における英語能力レベルについて価値のある情報を提供するものだと弊社は信じています。

## スコアの計算法

EF EPI スコアの計算は英語テストと2020年のEF EPI 指数を含む加重要素を使用して行っています。前年度とのスコアの差を安定化させるために前年度の指数を含めていますが、前年度の受験者数は本年度の受験者数には含まれていません。地域平均は人口によって加重されています。

スコアしきい値に基づき、国、地域、および都市は能力別グループに分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。

CEFR	EF EPI スコア
C2	700-800
C1	600-699
B2	500-599
B1	400-499
A2	300-399
A1	200-299
Pre-A1	1-199

- 非常に高い英語能力は、CEFR レベルの C1 に相当します。
- 高い、および標準の英語能力は、CEFR レベルの B2 に相当し、EF EPI の各能力グループがそれぞれ一つのCEFR レベル半分に相当します。
- 低い英語能力は、CEFR レベルの B1 のうち上半分に相当します。
- 非常に低い英語能力は、CEFR レベルの B1 および A2 のうち下半分に相当します。

## その他のデータソース

EF EPI は、国家試験の結果や言語世論調査データ、またはその他いかなるデータと競合することも、否定することも目的としていません。このようなデータセットはお互いを補完し合うものであります。1つの年齢グループ、国、地域、受験者プロファイルだけに焦点をあてた精細な情報も存在しています。EF EPI は共通の評価方法を用いて、世界中の労働年齢の成人を幅広く調査しています。これだけの規模と照準を持ったデータは他には存在しないため、いくつかの制限はあるものの、弊社は多くの政策立案者、学者、分析者とともに、英語教育について世界的な議論をする際の価値ある参照基準になると考えています。

EF EPI は EUROMONITOR や GALLUP などの世論調査組織が行っている調査や OECD が行っている PISA や PIAAC などの技量調査とは全く異なった作業手順で作成されています。これらの調査では、年齢、性別、教育レベル、収入などのさまざまな要因を使って調査参加者を選択しています。このような調査の回答者数は小規模になる傾向があり、多くても数千人の参加者となります。複雑なサンプリング手法を使用して調査を行うことにより、その結果は人口全体の傾向を表すと考えられています。残念ながら、このような英語スキル調査が国際レベルで実施されたことはありません。

英語能力に関するもう一つの参照データは、国家の教育制度によって作成されたものです。多くの学校が標準化した全国的評価試験を使って高等学校の全生徒や大学の受験者の英語スキルの評価を行っています。試験の結果は、公開・非公開さまざまですが、教育者と政府関係者は教育改革の有効性の評価や、改善が必要な分野を特定するために試験結果を利用しています。この全国的評価試験では、高校生の英語力を知るという観点では良い指標になりますが、被験者がその他の若年層や成人を対象としているため、国別で学生の比較や成人の英語力レベルの比較対象にすることはできません。

## EF Education First

イー・エフ・エデュケーション・ファースト (EF) は、1965年にスウェーデンで創設され、以来、世界100か国以上で語学、旅行、文化交流、学術プログラムを通してイマーシブな文化教育を取り組んでいます。詳しくは <https://www.efjapan.co.jp/> をご覧ください。EF EPI 英語能力指数は Signum International AG によって発行されています。

## EF EPI 能力レベル

### EF EPI能力レベルについて

EF EPI能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EF EPIは英語を母国語としない国と地域のみを調査の対象としています。

右の一覧では、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例を紹介しています。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

EF EPIは国と地域の比較を行うことを目的としており、個々の受験者の得意分野や不得意分野については、分析の対象から外しております。そのため各国の能力レベルは、その国内にいる「平均的な」受験者のレベルを単純に示唆するものではありませんのでご注意ください。

### 能力レベル

#### 非常に高い

オランダ  
シンガポール  
スウェーデン

### タスク例

- ✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる
- ✓ 高度な文章を簡単に読むことができる
- ✓ 英語のネイティブスピーカーと契約交渉ができる

#### 高い

ハンガリー  
フィリピン  
ケニア

- ✓ 職場でプレゼンを行っている
- ✓ テレビ番組を理解できる
- ✓ 新聞を読む

#### 標準的

イタリア  
コスタリカ  
中国

- ✓ 専門分野における会議に参加している
- ✓ 歌の歌詞を理解することができる
- ✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる

#### 低い

グアテマラ  
パキスタン  
トルコ

- ✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる
- ✓ 同僚とちょっとした会話ができる
- ✓ 同僚からの簡単なメールを理解することができる

#### 非常に低い

メキシコ  
タジキスタン  
ルワンダ

- ✓ 簡単な自己紹介(名前、年齢、出身国)ができる
- ✓ 簡単な合図を理解できる
- ✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる

## CEFR レベルとCan-Do 自己評価

### 熟練者

- 
- |           |  |
|-----------|--|
| <b>C2</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。</li> <li>• いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。</li> <li>• 自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。</li> </ul>  |
| <b>C1</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。</li> <li>• 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。</li> <li>• 社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。</li> <li>• 複雑な話題について明確で、しっかりと構成の、詳細な文を作ることができる。</li> </ul> |

### 自立した言語使用者

- 
- |           |   |
|-----------|---|
| <b>B2</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。</li> <li>• お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。</li> <li>• かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。</li> </ul>   |
| <b>B1</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 仕事、学校、娯楽で普段会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。</li> <li>• その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。</li> <li>• 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。</li> <li>• 経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。</li> </ul> |

### 基礎段階の言語使用者

- 
- |           |   |
|-----------|---|
| <b>A2</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。</li> <li>• 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えることができる。</li> <li>• もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。</li> </ul> |
| <b>A1</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。</li> <li>• 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。</li> <li>• 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。</li> </ul>                        |

# EF EPI

## 各国・地域スコア

各地域の英語力に  
おける変化の年次比較

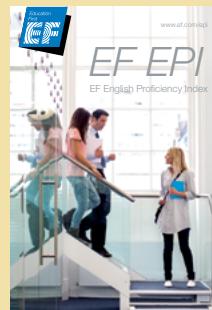
	EF EPI 2020年版	EF EPI 2021年版	スコア 変化
オランダ	652	663	+11
オーストリア	623	641	+18
デンマーク	632	636	+4
シンガポール	611	635	+24
ノルウェー	624	632	+8
ベルギー	612	629	+17
ポルトガル	618	625	+7
スウェーデン	625	623	-2
フィンランド	631	618	-13
クロアチア	599	617	+18
ドイツ	616	616	+0
南アフリカ	607	606	-1
ルクセンブルク	610	604	-6
セルビア	597	599	+2
ルーマニア	589	598	+9
ポーランド	596	597	+1
ハンガリー	598	593	-5
フィリピン	562	592	+30
ギリシャ	578	591	+13
スロバキア	577	590	+13
ケニア	577	587	+10
エストニア	566	581	+15
ブルガリア	579	580	+1
リトアニア	570	579	+9
スイス	588	575	-13
ラトビア	555	569	+14
チェコ共和国	580	563	-17
マレーシア	547	562	+15
ナイジェリア	537	560	+23
アルゼンチン	566	556	-10
フランス	559	551	-8
香港特別行政区	542	545	+3
スペイン	537	540	+3
レバノン	—	536	2020年度掲載無し
イタリア	547	535	-12
モルドバ	—	532	New
韓国	545	529	-16
ペラルーシ	513	528	+15
アルバニア	511	527	+16
ウクライナ	506	525	+19
ボリビア	504	524	+20
ガーナ	—	523	New
キューバ	512	521	+9
コスタリカ	530	520	-10
ドミニカ共和国	499	520	+21
パラグアイ	517	520	+3
チリ	523	516	-7
インド	496	515	+19
中国	520	513	-7
ジョージア	503	512	+9
ロシア	512	511	-1
チュニジア	489	510	+21
ウルグアイ	494	509	+15
エルサルバドル	483	508	+25
ホンジュラス	498	506	+8
ペルー	482	505	+23

	EF EPI 2020年版	EF EPI 2021年版	スコア 変化
マカオ特別行政区	505	504	-1
イラン	483	501	+18
アルメニア	494	499	+5
ブラジル	490	497	+7
グアテマラ	476	493	+17
ネパール	480	492	+12
エチオピア	477	491	+14
パキスタン	478	491	+13
バングラデシュ	476	490	+14
ベトナム	473	486	+13
タンザニア	—	485	New
モザンビーク	—	482	New
アラブ首長国連邦	472	480	+8
トルコ	465	478	+13
モロッコ	453	477	+24
バーレーン	453	476	+23
パナマ	483	475	-8
ベネズエラ	471	475	+4
アルジェリア	442	474	+32
ニカラグア	455	470	+15
マダガスカル	—	469	New
日本	487	468	-19
カタール	459	467	+8
インドネシア	453	466	+13
コロンビア	448	465	+17
スリランカ	466	464	-2
モンゴル	446	461	+15
クウェート	461	458	-3
エジプト	437	455	+18
アゼルバイジャン	432	451	+19
アフガニスタン	445	448	+3
ウズベキスタン	430	447	+17
シリア	431	445	+14
エクアドル	411	440	+29
ヨルダン	456	440	-16
メキシコ	440	436	-4
ミャンマー	411	429	+18
アンゴラ	444	428	-16
カメルーン	419	428	+9
カザフスタン	412	426	+14
カンボジア	435	423	-12
スーダン	434	421	-13
コートジボワール	414	420	+6
タイ	419	419	+0
キルギスタン	405	418	+13
オマーン	398	417	+19
タジキスタン	381	405	+24
サウジアラビア	399	404	+5
ハイチ	—	403	New
ソマリア	—	401	New
イラク	383	399	+16
リビア	—	390	2020年度掲載無し
ルワンダ	408	389	-19
コンゴ民主共和国	—	386	New
南スーダン	—	363	New
イエメン	—	360	2020年度掲載無し

## 参照資料

- Abbatiello, A., Agarwal, D., Bersin, J., Lahiri, G., Schwartz, J., & Volini, E. (2018). The Rise of Social Enterprise: 2018 Deloitte Global Human Capital Trends. Deloitte Insights. Retrieved from <https://www2.deloitte.com/us/en/insights/focus/human-capital-trends/2018.html>
- BBC News. (2015). How will a population boom change Africa? Retrieved from <https://www.bbc.com/news/world-africa-34188248>
- Central Intelligence Agency. (2020). The World Factbook. Retrieved from <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook>
- Chawla, D. S. (2018). International collaborations growing fast. Nature Index. Retrieved from <https://www.natureindex.com/news-blog/international-collaborations-growing-exponentially>
- Council of Europe. (2020). Language Education Policy Profiles. Retrieved from <https://www.coe.int/en/web/language-policy/profiles>
- Council of Europe. (2001). Common European framework of reference for languages: Learning, teaching assessment. Cambridge, U.K.: Press Syndicate of the University of Cambridge.
- Cronquist, K., & Fiszbein, A. (2017). English Language Learning in Latin America. Washington, DC: Inter-American Dialogue.
- Dutta, S., Lanvin, B., & Wunsch-Vincent, S. (2020). Global Innovation Index 2020. World Intellectual Property Organization. Retrieved from <https://www.globalinnovationindex.org/Home>
- The Economist. (2019). Language without instruction: More children around the world are being taught in English, often badly. Retrieved from <https://www.economist.com/international/2019/02/23/more-children-around-the-world-are-being-taught-in-english-often-badly>
- The Economist. (2018). Ed-tech: In poor countries technology can make big improvements to education. Retrieved from <https://www.economist.com/international/2018/11/15/in-poor-countries-technology-can-make-big-improvements-to-education>
- European Commission. (2017). Infographics: Foreign Languages at School in Europe 2017. Retrieved from [https://ec.europa.eu/national-policies/eurydice/content/infographics-foreign-languages-school-europe-2017\\_en](https://ec.europa.eu/national-policies/eurydice/content/infographics-foreign-languages-school-europe-2017_en)
- Freedom House. (2020). Global Freedom Scores. Retrieved from <https://freedomhouse.org/countries/freedom-world/scores>
- Hunt, V., Prince, S., Dixon-Fyle, S., & Yee, L. (2018). Delivering through Diversity. McKinsey & Company. Retrieved from [https://www.mckinsey.com/~/media/McKinsey/Business%20Functions/Organization/Our%20Insights/Delivering%20through%20diversity/Delivering-through-diversity\\_full-report.ashx](https://www.mckinsey.com/~/media/McKinsey/Business%20Functions/Organization/Our%20Insights/Delivering%20through%20diversity/Delivering-through-diversity_full-report.ashx)
- ICEF Monitor. (2018). Annual survey finds continued growth in international schools. Retrieved from <http://monitor.icef.com/2018/09/annual-survey-finds-continued-growth-in-international-schools>
- Lanvin, B., & Monteiro, F. (2020). The Global Talent Competitiveness Index 2020. INSEAD, the Adecco Group, & Tata Communications. Retrieved from <https://gtcistudy.com/the-gtci-index>
- Morin, V. (2019). A l'école primaire de Saint-Baldoph, les élèves apprennent les maths en anglais. Le Monde. Retrieved from [https://www.lemonde.fr/education/article/2019/04/11/a-l-ecole-primaire-de-saint-baldoph-les-eleves-apprennent-les-maths-en-anglais\\_5448838\\_1473685.html](https://www.lemonde.fr/education/article/2019/04/11/a-l-ecole-primaire-de-saint-baldoph-les-eleves-apprennent-les-maths-en-anglais_5448838_1473685.html)
- Mullis, I. V. S., Martin, M. O., Foy, P., & Hooper, M. (2015). TIMSS 2015 International Results in Mathematics. Trends in International Mathematics and Science Study. Retrieved from <http://timssandpirls.bc.edu/timss2015/international-results/wp-content/uploads/filebase/full%20pdfs/T15-International-Results-in-Mathematics-Grade-8.pdf>
- Oxford Gulf & Arabian Peninsula Studies Forum. (2017). Higher Education in the Gulf States: Present & Future. Gulf Affairs. Retrieved from [https://www.oxgaps.org/files/gulf\\_affairs\\_spring\\_2017\\_full\\_issue.pdf](https://www.oxgaps.org/files/gulf_affairs_spring_2017_full_issue.pdf)
- Piekkari, R., Welch, D. E., & Welch, L. S. (2014). Language in International Business: The Multilingual Reality of Global Business Expansion. Cheltenham, U.K.: Edward Elgar.
- Thomson Reuters. (2018). Diversity and Inclusion Index 2018. Retrieved from <https://www.thomsonreuters.com/en/press-releases/2018/september/thomson-reuters-di-index-ranks-the-2018-top-100-most-diverse-and-inclusive-organizations-globally.html>
- United Nations Conference on Trade and Development. (2020). UNCTAD Productive Capacities Index – Focus on Landlocked Developing Countries. Retrieved from [https://unctad.org/system/files/official-document/aldc2020d2\\_en.pdf](https://unctad.org/system/files/official-document/aldc2020d2_en.pdf)
- United Nations Development Programme. (2019). Gender Inequality Index (GII). Retrieved from <http://hdr.undp.org/en/content/gender-inequality-index-gii>
- The World Bank. (2021). Statistical Tables. Retrieved from <https://data.worldbank.org/>
- Wendling, Z. A., Emerson, J. W., de Sherbinin, A., Esty, D. C., et al. (2020). 2020 Environmental Performance Index. New Haven, CT: Yale Center for Environmental Law & Policy. Retrieved from <http://epi.yale.edu>

EF EPIの過去資料は [www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi) からダウンロードできます。



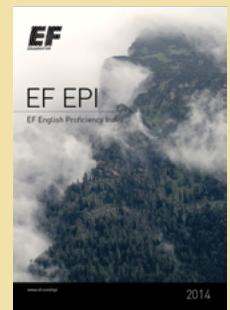
EF英語能力指数  
2011年版



EF英語能力指数  
2012年版



EF英語能力指数  
2013年版



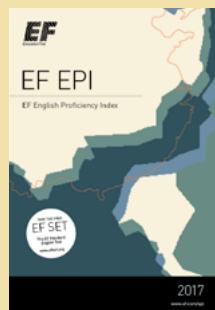
EF英語能力指数  
2014年版



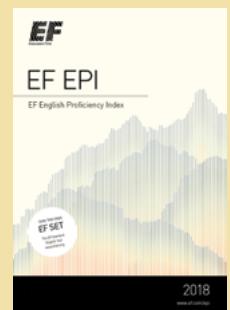
EF英語能力指数  
2015年版



EF英語能力指数  
2016年版



EF英語能力指数  
2017年版



EF英語能力指数  
2018年版



EF英語能力指数  
2019年版



EF英語能力指数  
2020年版



EF英語能力指数  
2021年版

